

高岡町埋蔵文化財調査報告書第21集

み しょう え
三生江遺跡

県営担い手育成基盤整備事業城ヶ峰地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001. 3

宮崎県高岡町教育委員会

三生江遺跡正誤表

頁	行	誤	正
5	9	合同で遺跡と	合同でそれらの遺跡と
15	4	第18図200~214	第18図200~216
15	33	甕(259~274)	甕(259~273)
51	No200 ~216 の器種	布痕	鉢
56	No276 の種別	土師器	その他
64	4	7 1988	7 永友良典 1988

高岡町埋蔵文化財調査報告書第21集

み しょ え
三生江遺跡

県営担い手育成基盤整備事業城ヶ峰地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001. 3

宮崎県高岡町教育委員会

序 文

この報告書は、県営調場整備事業（担い手育成型）城ヶ峰地区に伴い、平成9年度に実施した三生江遺跡における埋蔵文化財発掘調査の報告書であります。

この調査により、古代末の包含層から、多数の土師器のほか、綠釉陶器や越州窯系青磁などが出土し、南九州の当時の歴史を解明するうえで大きな成果をあげることができました。

この発掘調査で明らかにされたものは、先人が残した私たちの文化遺産であり、これらの成果を活かすことが、我々に課せられた重大な責務と考えております。本書が町内に所在する文化財の保存に役され、また本町の学術資料として学校教育、社会教育などに幅広く活用頂ければ幸いに存じます。

尚、発掘調査を実施するにあたり、関係各所より頂いたご指導とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

平成13年3月

高岡町教育委員会
教育長 中山芳教

例 言

- 1 本書は、県営圃場整備事業（扱い手育成型）城ヶ峰地区に伴い、1997年度（平成9年度）に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告である。
- 2 遺構や遺物の実測は、西慶喜（嘱託）、[]（高岡町埋蔵文化財調査室）の協力を得た。また、遺物実測の一部を株式会社埋文サポートシステムに委託した。
- 3 植物珪酸体分析は（株）古環境研究所に委託した。
- 4 空中写真撮影は九州航空株式会社に委託した。
- 5 三生江遺跡の遺跡番号は136で、出土遺物は高岡町教育委員会に保管している。遺物の注記は、「遺跡番号—グリット名—層位」を基本としている。
- 6 本書の編集は廣田の協力のもと島田がおこなった。

凡 例

- 1 出土遺物観察表については下記のとおりである。
 - ・「調整・文様」の項目にみられる①～④の記号は、①I縁部、②頸部、③胴部、④底部とする。
 - ・「法量」の単位はmm（長さ）とg（重量）である。また、高台の底部径はその外側で計測した数値である。
 - ・「器種」においては須恵器の高台付杯を高台付碗と表現している。（本文中も同様とした）

目 次

Iはじめに	5
第1節 はじめに	5
1 遺跡の位置と調査経緯	5
2 調査組織	5
第2節 遺跡の環境	6
1 地形的環境	6
2 歴史的環境	6
3 遺跡の立地環境	9
II 調査	10
第1節 調査概要	10
1 調査概要	10
第2節 層序	10
1 基本層序	10
第3節 造構と遺物	10
1 造構	10
2 遺物	10
III 分析	59
第1節 三生江遺跡における植物珪酸体分析	59
IV まとめ	63

挿図目次

第1図 遺跡分布図	7	第14図 出土遺物実測図 (10)	26
第2図 遺跡周辺地形図	9	第15図 出土遺物実測図 (11)	27
第3図 調査地全体図	11	第16図 出土遺物実測図 (12)	28
第4図 調査地土層図	12	第17図 出土遺物実測図 (13)	29
第5図 出土遺物実測図 (1)	17	第18図 出土遺物実測図 (14)	30
第6図 出土遺物実測図 (2)	18	第19図 出土遺物実測図 (15)	31
第7図 出土遺物実測図 (3)	19	第20図 出土遺物実測図 (16)	32
第8図 出土遺物実測図 (4)	20	第21図 出土遺物実測図 (17)	33
第9図 出土遺物実測図 (5)	21	第22図 出土遺物実測図 (18)	34
第10図 出土遺物実測図 (6)	22	第23図 出土遺物実測図 (19)	35
第11図 出土遺物実測図 (7)	23	第24図 出土遺物実測図 (20)	36
第12図 出土遺物実測図 (8)	24	第25図 出土遺物実測図 (21)	37
第13図 出土遺物実測図 (9)	25	第26図 三生江遺跡における植物珪酸体分析結果	62

表目次

表1 出土遺物観察表	38
表2 三生江遺跡における植物珪酸体分析結果	61
表3 報告書登録抄	79

写真図版目次

図版1 遠景（東から空撮）、遠景（西から空撮）	
図版2 調査区近景（西から）、調査区近景（東から空撮）、調査前近景	
図版3 自然流路（東から）、自然流路（北から）、淀み付近包含層	
図版4 出土遺物 1	
図版5 出土遺物 2	
図版6 出土遺物 3	
図版7 出土遺物 4	
図版8 出土遺物 5	
図版9 出土遺物 6	
図版10 植物珪酸体顕微鏡写真 1	
図版11 植物珪酸体顕微鏡写真 2	
図版12 植物珪酸体顕微鏡写真 3	

I はじめに

第1節 はじめに

1 遺跡の位置と調査経緯

遺跡は、宮崎県東諸県郡高岡町大字花見5128-1に所在する。調査の契機は、宮崎県中部農林振興局から県営圃場整備事業（狙い手育成型）城ヶ峰地区に伴う埋蔵文化財の所在の有無について、宮崎県教育委員会文化課に照会があった。県文化課は遺跡詳細分布調査の成果から野間遺跡や三生江遺跡の所在を伝え、合わせて高岡町教育委員会と合同で遺跡とその周辺を中心に確認調査をおこなった。確認調査は平成9年3月後半に実施した。トレンチは、切り盛りを含めた工事計画が明確でなかったため、ランダムに設定した。その結果、三生江池付近で土師器を中心にして十数点が出土した。その結果を踏まえ、県文化課は県中部農林振興局と高岡町教育委員会を含め、平成9年6月に協議をおこなった。この協議において、施工計画では遺跡確認区域は耕地部分が盛土であることと一部農道になることから、その農道になる部分を中心に高岡町教育委員会が調査主体となり発掘調査を実施することとなった。調査は10月6日から11月17日までである。

2 調査組織

調査主体 高岡町教育委員会

1997年度（調査）		2000年度（整理）	
教 育 長	篠原和民	教 育 長	中山芳教
社会教育課長	小谷清男	社会教育課長	四位行治
社会教育課長補佐兼		社会教育課長補佐	梅元利隆（12月まで）
社会教育係長	梅元利隆	文化財係長	黒木敏幸（12月まで）
主任主事	島田正浩		島田正浩（1月から）
		主 査	島田正浩（12月まで）
		主事補	廣田晶子
		嘱 託	西 康喜

また、この調査を実施するにあたり、地権者の方々をはじめ宮崎県中部農林振興局や高岡町役場などご理解とご協力を頂いた。さらに、小野正敏（国立歴史民俗博物館助教授）、井上喜久男（愛知県陶磁資料館）、出合宏光（相良村教育委員会）、水友良典（宮崎県埋蔵文化財センター）、谷口武雄（宮崎県文化課）、岡本武憲（口南市教育委員会）、木村明史（佐土原町教育委員会）の各諸氏からご指導頂いた。記して、感謝申し上げる次第である。

第2節 遺跡の環境

1 地形的環境

高岡町は山林が70%以上を占める。その町中央を蛇行しながら大淀川が東流し、それによって形成された河岸段丘からその東側に広がる宮崎平野を一望する。この大淀川に起因する自然環境が大きく人々の生活を左右していたことはいうまでもなく、しかし歴史的要因にも導かれていた。遺跡は大淀川南岸の独立した丘陵である。周囲は一段低い台地が四方に広がり遺跡がある丘陵のみが突出している。このような地形について合原敏幸氏⁽¹⁾は「高岡町南部の高岡山地中央部及び東部には白亜紀の四十万累層群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、一部玄武岩、凝灰岩などの塩基性岩類が含まれる。内に八重付近の砂岩頁岩互層には塩基性岩類に伴って、厚さ1m~2mのチャートが見られる。高岡山地西部には、古第三紀の四十万累層群に属する砂岩を伴う頁岩、砂岩頁岩互層が分布しており、高岡山地を南北に横切る高岡断層によって前述の白亜紀の層に接している。高岡町の中心部付近及び高岡山地北端には、新第三紀の宮崎層群に属する砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層が広い範囲で分布している。本層は四十万累層群を傾斜不整合の覆う海成層で、貝、カニ、ウニ等の化石を含む。さらに、町中心部付近に及び西部は宮崎層群を不整合に覆い第四紀の疊、砂、及び粘土からなる段丘堆積物、主にシラスからなる姶良噴出物、及び主に疊、砂シルトからなる沖積層がみられる。段丘堆積物、姶良火山噴出物は急傾斜とその上の広い平坦面や緩斜面から形成される台地状の地形を有している。沖積層は、大淀川、浦之名川、内山川、飯田川等の河川流域沿いに分布している。」(高岡町埋蔵文化財調査報告書12集より抜粋)としている。

(1) 高岡町役場都市計画課係長

2 歴史的環境

高岡町の遺跡は、現在140箇所以上ありそのほとんどは河川により形成された台地上に位置している。

旧石器時代

調査は綾町との町境付近に位置する向屋敷遺跡のみ実施されている。集石遺構とともにナイフ形石器やスクレイバーが出土した。また、石材で五女木産の黒曜石が1点ではあるが確認されている。さらに表探資料としては、野尻町に近い大字浦之名・里山地区で剥片尖頭器がある。

縄文時代

この時代は調査例が多く草創期以外はすべて確認されている。なかでも早期の調査例は多く、犬ヶ城、跡をはじめ、宗栄寺遺跡、久木野遺跡(1区~4区)、橋山第1遺跡、橋上遺跡、八久保第2遺跡、櫻原遺跡、中原遺跡が調査されている。犬ヶ城跡では、押型文土器と桑ノ丸式土器が大半を占め、その両者の折衷土器も出土している。橋山第1遺跡は集石遺構が検出され、前半、吉田、下剥峰、桑ノ丸、平椿、塞ノ神、苦浜、押型文等の各形式の上器が出土した。また、久木野遺跡では森1式がアカホヤより下層から出土した。その他の遺跡でもそれぞれの遺物は出土しているが、石坂式だけは出土例がなく出土例が少ない県内にあっては同じような状況である。さらに遺構は集石遺構を中心で高岡町では住居跡は検出されていない。また、交易圈を考えるうえでひとつのかぎとなる黒曜石も九州島各地のものが出土しておりデータの蓄積をおこなっている。前期は久木野遺跡第1区で包含層から森B式が出土している。中期は同じく久木野遺跡で春日、大平、岩崎下層の各形式のものが出土している。後期は橋山第1遺跡で阿高系の土器や疑似縄文の土器が出土した。



第1図 遺跡分布図

さらに久木野遺跡では円形竪穴住居跡とともに北久根山式が出土している。城ヶ絆遺跡では市来式や北久根山式が出土した。また、表探資料ではあるが山子遺跡、赤木遺跡等でも確認されている。晩期は黒色磨研土器が学頭遺跡から出土している。

弥生時代

調査された遺跡からはIV～V期が中心に出土しておりI～III期は出土例がない。標高15メートル程の微高地状のところに位置する学頭遺跡からは断面V字状を呈する溝状遺構や竪穴住居跡が検出された。

古墳時代

調査は、まず、住居跡の調査としては八児遺跡や高岡麓遺跡第5地点がある。高岡麓遺跡では2軒の竪穴住居跡が検出され5世紀中頃に比定されている。また、八児遺跡は個壁にカマドが付設された竪穴住居跡(7世紀代)などが12軒以上検出された。両遺跡とも標高がほぼ同じで大淀川の氾濫源である低地に位置しており、農耕集落の一端をみることが出来る。次に墳墓の調査としては久木野地下式横穴墓群がある。今まで4基の調査がおこなわれ、人骨とともに鉄斧や玉類が出土し6世紀前半としている。また、町内には3基の県指定古墳があり円墳となっている。その古墳の近くで耕作中に壺が2点と鉄製品が発見されている。

古代

高岡周辺は淨半年間(931～938年)の和名抄によると、その当時は「穆佐郷」といわれていた。それより遙か時代の遺跡が最近の調査で確認されている。一つは鹿野遺跡で、大淀川北岸の丘陵(大字花見)に位置し、9世紀後半の土師器の陶、瓦などを生産した焼成遺構が6基以上検出された。また、宗栄寺遺跡や二反野遺跡で土師器陶が出土している。

中世

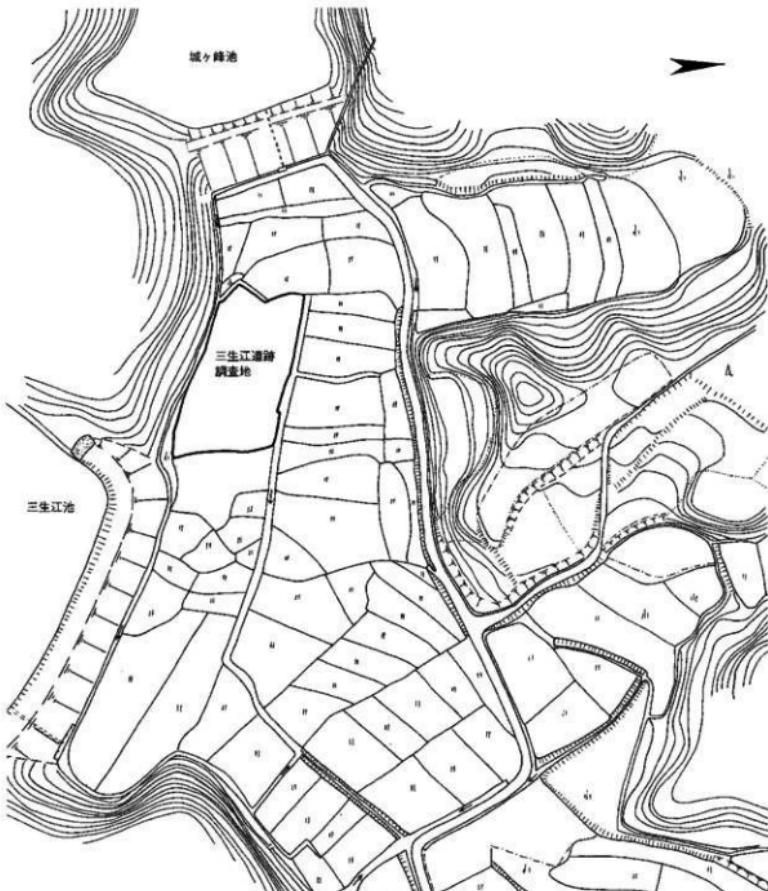
延久岡田帳によると高岡は、12世紀には「鳥津庄穆佐院」といわれていた。その後、南北朝期を経て、鳥津氏と伊東氏の対立を迎える。その中心となったのが穆佐城である。穆佐城は足利尊氏が九州の拠点としたことからはじまる。その後、島津久豊・忠国の居城、そして伊東氏48城のひとつとなっていく。そのなかで、穆佐城周辺の大淀川沿いにも小規模な山城が点在し、戦国の時代へと入っていく。平成3年には穆佐城の縄張り調査を実施し、その成果として、南九州特有の特徴をもつとともに機能分化のみられる山城であることがわかった。

近世

中世までは高岡の中心地は穆佐城周辺だったのに対して江戸の時期になると天ヶ城周辺に一変する。鹿児島藩は、天ヶ城と穆佐城の裾地に多くの郷士を移住させ籠を形成させた。そして、綾、倉岡とともに間外四ヶ郷として、特に高岡郷はその中心として鹿児島藩の東方の防衛の要として発展する。高岡の地頭仮屋を中心に広がる高岡麓遺跡は、計画的な街路設計がなされ、郷上屋敷群と町屋群に分割されている。調査はすでに12箇所で実施され、町屋を調査した第1地点では大火跡と思われる焼土層の下から素掘の井戸や土坑を検出した。さらに、第5地点では郷上屋敷群の一角を調査し建物跡や陶磁器類を検出、第8地点では武家門の下部構造を明らかにさせた。このように近世の遺跡の調査は高岡麓遺跡だけに留まっているが、道路脇などにある石塔類からも当時の状況を知ることができる。

3 遺跡の立地環境

三生江遺跡が位置するところは、大淀川と本庄川の合流するところから西に約3km入ったところにある幅約50mの谷間である。そのさらに内側背後には標高60m前後の河岸段丘が広がっている。遺跡は標高にして20m前後の平坦地に広がっており、南北に痩せた小丘陵がある。その北側小丘陵には上三生江遺跡があり、三生江遺跡と同時期の遺物が表採できる。また、西側の河岸段丘上には同時期の土師器焼成遺構が確認された蕨野遺跡が存在する。



第2図 遺跡周辺地形図

II 調査

第1節 調査概要

1 調査概要

三牛江遺跡は約1,150m²の調査である。調査区内は南西側が高く北側が低くなる地形で、南側から北東側に自然流路が形成される。その自然流路を中心に遺物が堆積しており、その包含層の広がりは、薄厚があるものの調査区内北西側を除く約600m²程度である。遺物は土器類、須恵器、黑色土器、布痕土器、綠釉陶器、灰釉陶器、青磁などが出土しており、時期は7~13世紀と思われるが、そのほとんどは9世紀中頃から10世紀初頭を中心とする。包含層削除後、地山面と考えられるところで遺構検出をおこなったが確認はできなかつた。

第2節 層序

調査区域周辺の層位は、耕作土、橙色粘土（盤）、青灰色粘土もしくは淡褐色粘土となるが、包含層が広がるところは橙色粘土（盤）の下に包含層が存在する。包含層に相当する層は、基本的に上から、明灰色粘性土（白色粒子混入）、灰色粘性土、暗灰色弱粘性土、明灰褐色弱粘性土、明灰茶色弱粘性土（地山混入）となる。

第3節 遺構と遺物

1 遺構

調査区南側に自然流路と思わせる窪地が確認された以外は、人為的な遺構は確認されなかつた。自然流路は幅約3m、深さ約0.5mの断面皿状の溝が、南側の丘陵裾部から調査区域に入り、そこで小さな渦みをつくり、さらに東側へ方向を変えて流れているものと思われる。その流路を中心に包含層が形成された。

2 遺物

包含層が堆積した要因は定かでないが、この遺跡もしくは周辺の遺跡が廃棄された後で、調査区域に幾度となく堆積したものである。包含層からの遺物を層位ごとに比較検討した結果、それぞれの器種ごとでは層位間での型式差は見いだせなかつた。そのため、器種ごとにそれぞれの形態から分類して、次に掲載した。

(1) 土師器 (第5~17図 1~186)

杯 (1~77)

杯は直線的な体部形態で底部へラ切り撇しである。完形については次のように細分した。また、完形でないものは、底部形態から細分した。

I類 (1) 底部が厚手で、口縁部にかけてまっすぐ立ち上がり、口径12.0cm前後、器高5.0cm前後のもの。

II類 底部が薄手で、口縁部にかけてまっすぐ立ち上がり、器高5.0cm前後のもの。

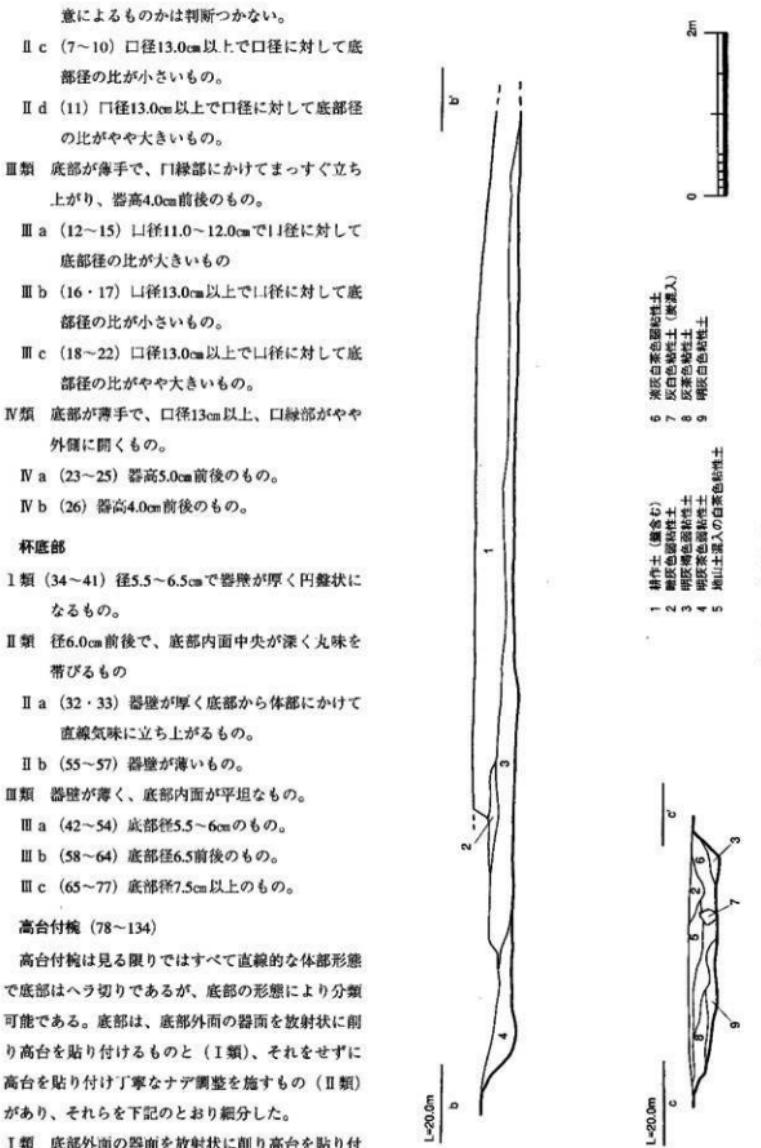
II a (2~5) 口径11.0~12.0cmで口径に対して底部径の比が小さいもの

II b (6) 口径11.0~12.0cmで口径に対して底部径の比がやや大きいもの。6の底部穿孔は、摩耗が強く故



第3図 調査地全体図

第4図 調査地土層図



意によるものかは判断つかない。

II c (7~10) 口径13.0cm以上で口径に対して底
部径の比が小さいもの。

II d (11) 口径13.0cm以上で口径に対して底部径
の比がやや大きいもの。

III類 底部が薄手で、口縁部にかけてまっすぐ立ち
上がり、器高4.0cm前後のもの。

III a (12~15) 口径11.0~12.0cmで口径に対して
底部径の比が大きいもの

III b (16~17) 口径13.0cm以上で口径に対して底
部径の比が小さいもの。

III c (18~22) 口径13.0cm以上で口径に対して底
部径の比がやや大きいもの。

IV類 底部が薄手で、口径13cm以上、口縁部がやや
外側に聞くもの。

IV a (23~25) 器高5.0cm前後のもの。

IV b (26) 器高4.0cm前後のもの。

杯底部

I類 (34~41) 径5.5~6.5cmで器壁が厚く円盤状に
なるもの。

II類 径6.0cm前後で、底部内面中央が深く丸味を
帯びるもの

II a (32~33) 器壁が厚く底部から体部にかけて
直線気味に立ち上がるもの。

II b (55~57) 器壁が薄いもの。

III類 器壁が薄く、底部内面が平坦なもの。

III a (42~54) 底部径5.5~6cmのもの。

III b (58~64) 底部径6.5cm前後のもの。

III c (65~77) 底部径7.5cm以上のもの。

高台付椀 (78~134)

高台付椀は見る限りではすべて直線的な体部形態
で底部はヘラ切りであるが、底部の形態により分類
可能である。底部は、底部外面の器面を放射状に削
り高台を貼り付けるものと(I類)、それをせずに
高台を貼り付け丁寧なナデ調整を施すもの(II類)
があり、それらを下記のとおり細分した。

I類 底部外面の器面を放射状に削り高台を貼り付

けるもの。

I a (78・85~89) 底部内面中央が丸味を帯びて凹み、高台がやや開くもの。

I b (79~83・134) 底部内面が平坦であるもの。

I c (84・106~109) 底部径が大きく、作りが雑である。

I d (110~113) 底部径は I c 類より小さく、高台が細くて小さい。

I e (114~119) 高台が長く、外に開くもの。

I f (120) 底部径が小さく高台が厚いもの。

I g (121~124) 底部の器壁が厚いもの。高台の形状が I b 類や I e 類に似る。

II 類 底部外面の器面を放射状に削ることをせず、丁寧なナダ調整を施すもの。

II a (125・126) 底部内面が平坦で、高台は断面長方形状で外に開くもの。

II b (127・128) 高台が長く開くもの。

III 類 (129~134) 放射状の削りの有無が確認できないものを一括した。

大塊 (135~138)

大塊は完形品はないが、口径が20cm前後で高台においても大振りなものとした。

I 類 (135) 体部から口縁部にかけて直線的に開くもの。

II 類 (136) 口縁部で外反するもの。

III 類 (137) 器壁が厚く、つくりがしっかりしている。大塊としたが鉢のような器形かもしれない。

IV 類 (138) 高台が長く、外に開くもの。

高台付皿 (139~145)

皿の形態はすべて高台付で、高台付碗と同様に底部外面の器面を放射状に削る。体部から口縁部にかけて直線的に延びるものと直線的な体部から口縁部でやや外反気味となるものと体部から口縁部にかけて内湾気味となるものがある。

I 類 (140・141) 体部から口縁部にかけて直線的に延びるもので断面台形状の高台を貼り付ける。

II 類 (139) 直線的な体部から口縁部でやや外反気味となるもので高台は小さく外にはあまり開かない。

III 類 (142) 体部から口縁部にかけて内湾気味となるもので高台は小さく外にはあまり開かない。

高台付皿底部 (143~145) は高台が I ~ III 類の高台より大きく外側に開く。

甕 (146~171)

甕は完形品は無い。そのため口径でみた場合、おおよそ大型のものと小型のものに分けることが出来る。さらに口縁部から胴部にかけての形状から次のように細分した。また、調整は摩耗が激しいため内面のケズリが確認できないものもあり、外面についても不明なものが多い。

I 類 口径が小さく口縁部に対して長胴のもの。

I a (146~150) 脇部に若干の張りを持ち、口縁部が外反するもの。150のように口径が小さいものもある。

I b (151~153) 脇部が張らず、頸部からほぼ垂直に胴部へ移行するもの。

II 類 口径が大きく口縁部に対して長胴となるもの。

II a (154~163) 脇部に若干の張りを持ち口縁部が外反するもの。特に159と160は口縁部が直線的

である。内面調整は151～160は胴部に縱もしくは斜方向のケズリがみられる。

II類 (164～166) 洞部が張らず、頭部からほぼ垂直に胴部へ移行するもの。165は口縁部が直線的である。内面調整は164と166の胴部に縱方向のケズリがみられる。

III類 (167) 口縁部は器壁が厚く外面に稜線が廻る。胴部が若干の張りを持ち、長胴ではなく器高は低くなる。

IV類 (168・171) 口縁部が長く、頭部からほぼ垂直に胴部へ移行するもの。

V類 (169) 頭部の屈曲部が明瞭でないもの。

瓶 (172～178)

瓶は底部形態を基準に分類した。把手については172や178のようなドーナツ状のものと177のような突起状のものがある。

I類 (172～174) 底部が肥厚しながら端部を内側に屈曲させる。171は口縁部が緩やかに外反し、胴部は張りを持たずにつづく。頭部にはドーナツ状の把手が付く。調整は底部から胴部にかけての内面は上方向へのヘラケズリで胴部外面と口縁部内面に横方向の丁寧なハケ目がみられる。

II類 (175) 底部は肥厚気味となるが、I類のように内側に屈曲しないもの。

III類 (176) 底部が肥厚気味となるが、端部外面にくびれをもつ。

羽釜 (179・180)

羽釜状の甕というべきものと考えられるが、13世紀代の遺物がこの包含層に少量混入することから、特にNo.180は中世の羽釜かもしれない。

その他 (181～186)

脚である。181～183は脚付の杯・碗類と思われるが、高坏として考えてもよいのかもしれない。183は放射状のケズリがみられる。184～186は鉢や甕に伴う脚と思われる。

(2) 黒色土器 (第17・18図 187～199)

杯 (187)

杯の底部で、円盤状高台と言われているものである。底部径は小さく、1回転によるヘラ切り兼しと思われる。

高台付椀 (188～196)

土師器と同様に、直線的な体部形態で底部はヘラ切りであるが、底部の形態により分類可能である。底部は、底部外面の器面を放射状に削り高台を貼り付けるものと(I類)、それをせず高台を貼り付け丁寧なナデ調整を施すもの(II類)がある。

I類 (188～192) 底部内面が平坦で、高台は断面長方形でやや聞くもの。191と192は高台の先端が細くなる。

II類 (193) 底部外面に放射状のケズリを施さず、丁寧なナデ調整を施すもの。

III類 (194～196) 摩耗が激しいため、放射状のケズリの有無が確認できないものを括した。

大椀 (197・198)

底部のみで、高台は低く外側に開く。底径が大きく器壁も厚い。

高台付皿（199）

断面長方形の高台が付く皿で、体部から口縁部にかけて直線的に開く。底部外面に放射状のケズリを施す。

（3）布疵土器（第18図200～214）

基本的に外面に指頭圧痕を残す手尽くね版で、内面に布目痕がみられるものであるが、摩耗が激しく布目痕が確認できないものもある。底部は尖底をなし、円錐状の器形である。

（4）須恵器（第19～24図 217～275）

杯（217～220）

完形はない。217は体部から口縁部にかけて直線的に開く。218と219も同様と思われる。220は底部から体部にかけてやや丸味を帯びる。

高台付椀（221～229）

高台付き椀は土師器と同様で直線的な体部形態で、底部はハラ切り離しで、底部外面の器面を放射状に削り高台を貼り付けるものと（I類）、それをせざ高台を貼り付け丁寧なナデ調整を施すもの（II類）がある。

I類（221）底部外面に放射状のケズリを施し高台を貼り付けるもので1点のみ出上した。器壁は全体に厚手である。

II類 底部外面に放射状のケズリを施さず、丁寧なナデ調整を施すもの。

II a（222・224）高台は断面長方形で外に開き気味となり、器壁が厚手のもの。

II b（223・225～227）高台は断面長方形で外に開き気味となり、器壁が薄いもの。

II c（229）高台が垂直になるもの。

大椀（230～232）

口径が18cm以上で体部から口縁部にかけてまっすぐに開く。230は底部外面に放射状のケズリを施さず、丁寧なナデ調整を施す。

壺（233～258）

233～235は壺の口縁部としているが、変形のものかもしれない。233は口縁部外面に格子目タタキをナデ消し、その上に波状文をハラ描きしている。236～240の口縁部は下村壺のものと同じタイプである。また、242～246はその口縁部に関係する頸部から胴部にかけての破片である。248は小壺の頸部である。250と251は胴部が明瞭な稜をもって屈曲する。頸部付近までカキ目が残り、頸部内面は指頭圧痕がみられる。時期的に他の遺物とズレるかもしれない。252～255は平底の底部で、胴部へやや開き気味に立ち上がる。ほとんどが外面の格子目タタキをナデ消すが、255はそのまま残している。256と257は底部平底で、胴部へは垂直気味に立ち上がる。240は肩部に付く取手である。258は壺と思われるが、口縁部の屈曲部が丸みを帯び明瞭でなく、はそこのような別の器種かもしれない。

壺（259～274）

壺は底部以外の器壁が薄い259と261～263は口縁部が大きく外反する。260は口縁部が頸部から垂直気味に立ち上がり、端部は外反する。いずれもタタキ痕を頸部まで残し口縁部はナデ調整である。頸部に残るタタ

キは262と265以外は格子目タタキである。260と262は頸部でほぼ直角に屈曲し、肩が強く張る。268と269は内面に同心円当て具痕がみられる。272と273は丸底を呈する。

鉢（274）

体部から口縁部にかけてまっすぐに開く。外面は格子目タタキをナデ消している。

片口鉢（275）

口縁部片だけであるが、神出Ⅱ期2段階のものに類似している。

（5）その他（第24図 276～286）

色調は灰色を呈し器面が燃しているものがある。見たところ須恵器の焼成不良のようでもあり、類似するものが下村窯でも須恵器として報告されている。しかし、部分的に黒く燃されており、その中には瓦器を焼成しようとした試みたのではないかと思わせるものもある。概に須恵器や土師器として取り扱えないと考え、ここに一括した。

276は体部が直線的に開く杯である。277～279は円盤状高台に似るが、それよりも器壁がやや薄い。280～286は高台付き碗である。280は体部から口縁部にかけてまっすぐに開く。283と284以外は底部外面の器面を放射状に割り高台を貼り付けるものである。

（6）縄釉陶器（第25図 287～291）

縄釉陶器は楕、皿を中心と洛西、洛北、防長産のものが出土している。287は洛西の楕で体部中央に沈線が入る。288と289は洛西の蛇の目高台の皿である。290は洛西の皿で堅微である。291は防長系（周防）の皿である。焼成が軟質で釉の脱落が目立つ。

（7）灰釉陶器（第25図 292～295）

灰釉陶器は、猿投窯系の楕、皿、壺が出土している。292～295は重ね焼きの痕跡がみられ、高台と底部外面（高台内）には施釉しない。294と295は段を有する段皿と思われる。

（8）青磁（第25図 296・297）

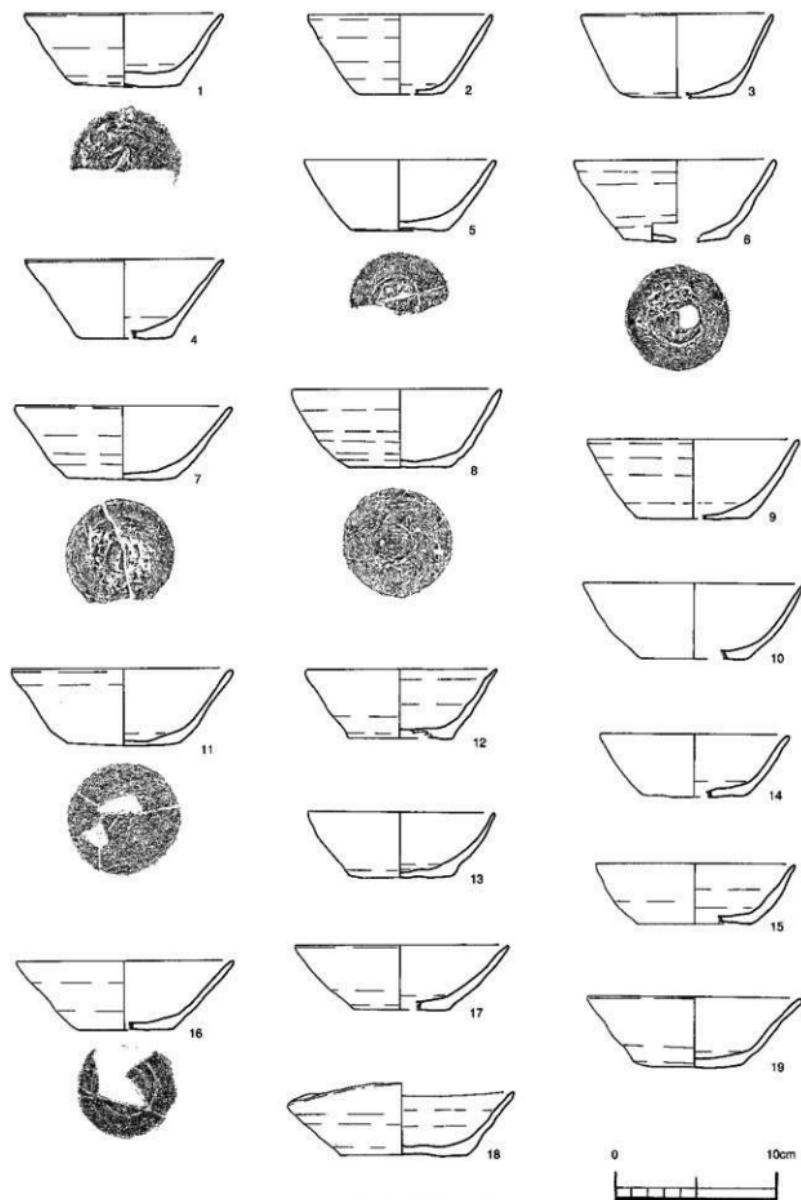
296と297は越州窯系青磁碗で、目跡が明瞭に残る。

（9）土製品（第25図 298～303）

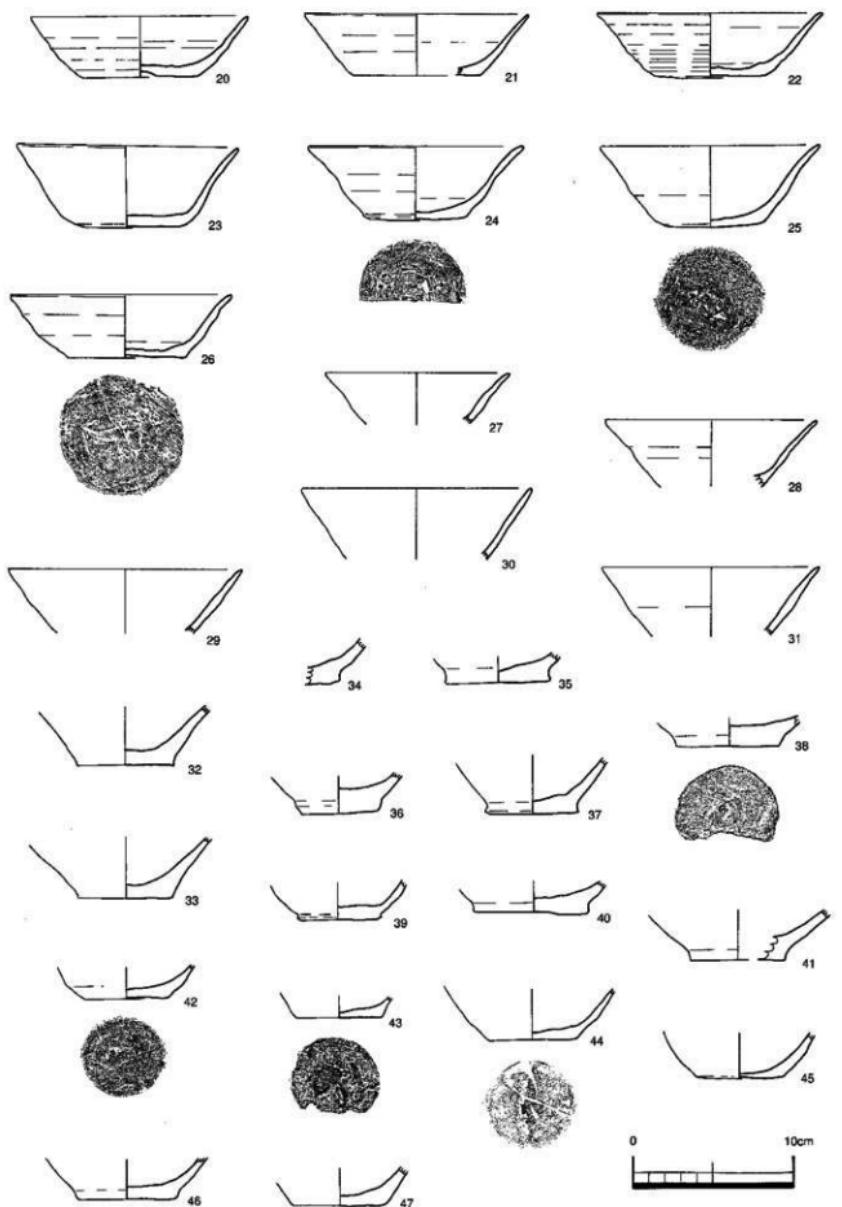
298～301は土壙である。302は用途不明である。303はカマドの底部分と思われるが、器壁が厚手で指痕痕が数多く残り、雑なつくりである。

（10）鉄製品（第25図 304）

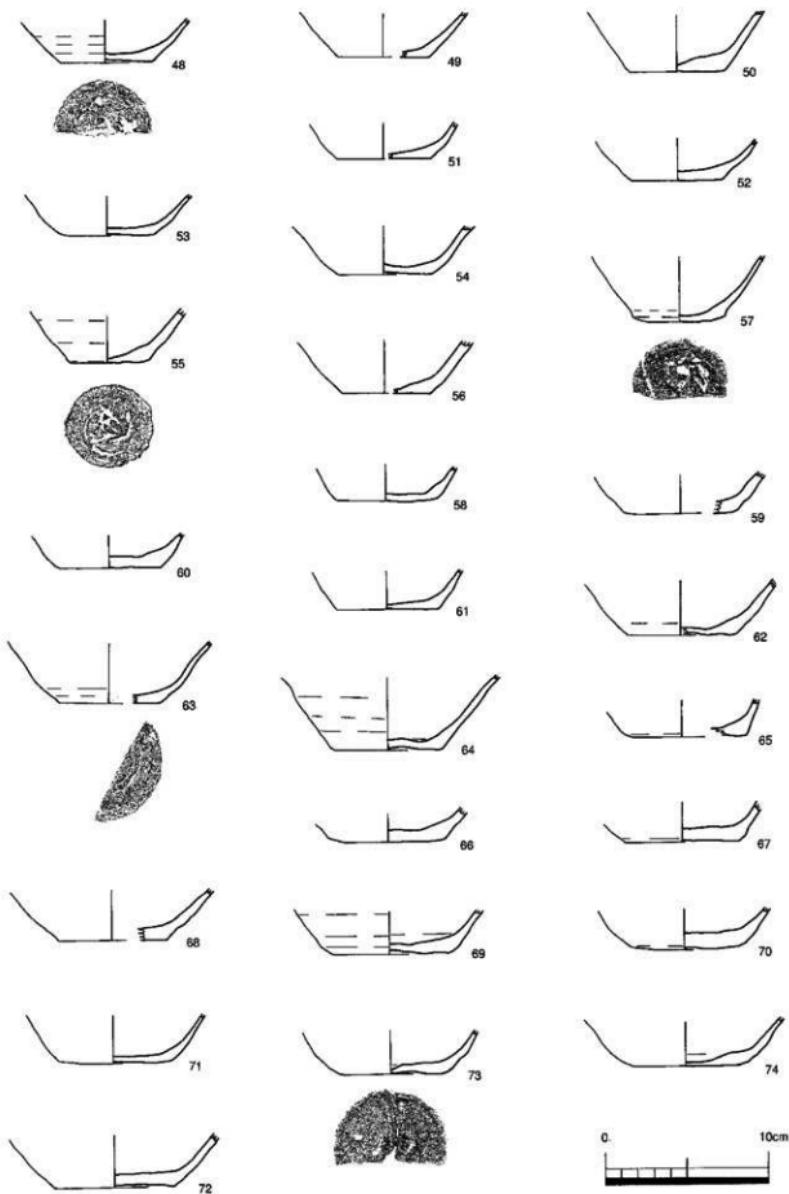
形状から刀剣の柄金具ではないかと思われるが、時期は明確ではない。最大幅36mmの断面楕円形状でその中は空洞である。



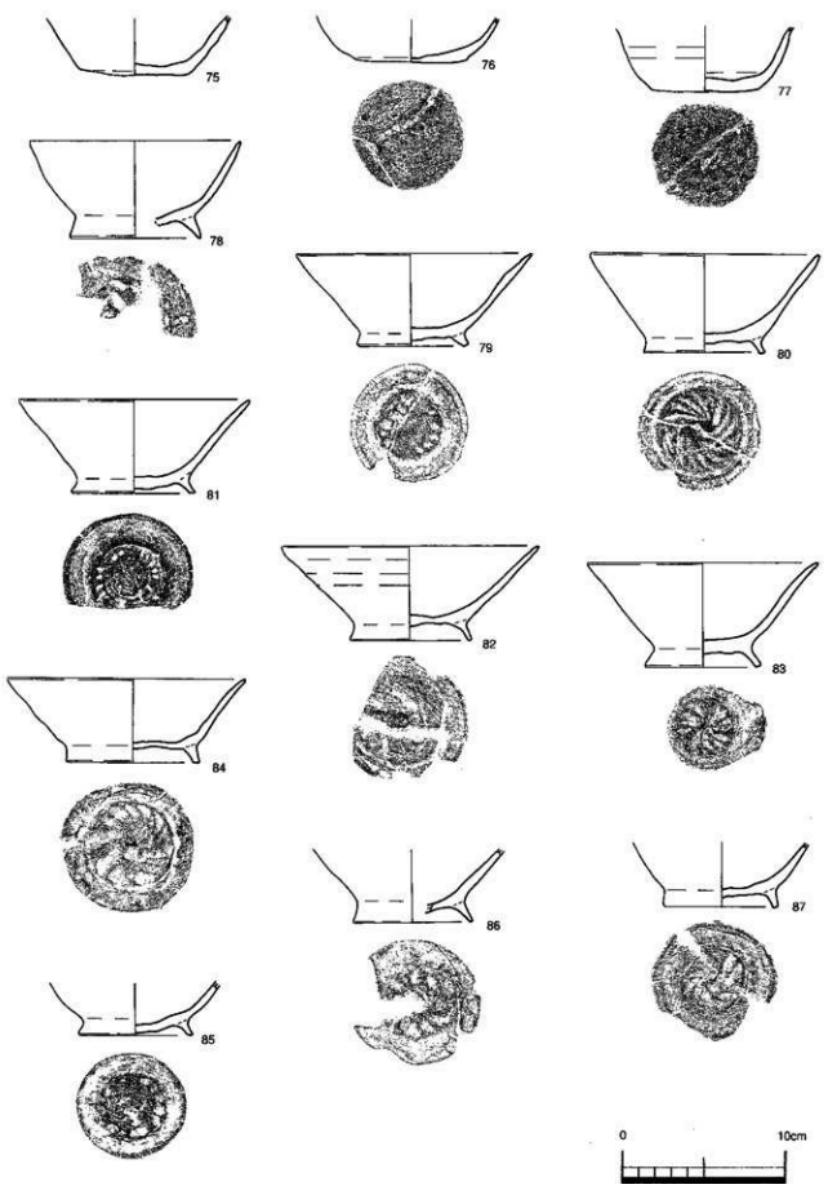
第5図 出土遺物実測図(1)



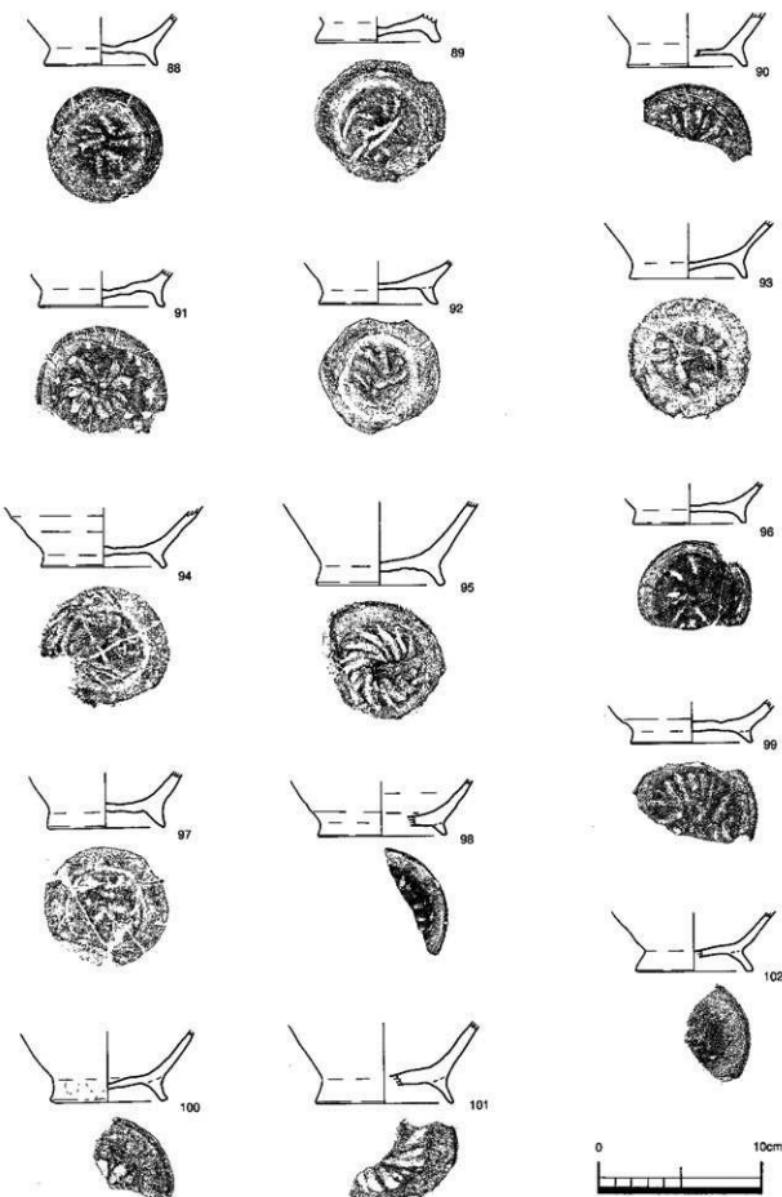
第6図 出土遺物実測図（2）



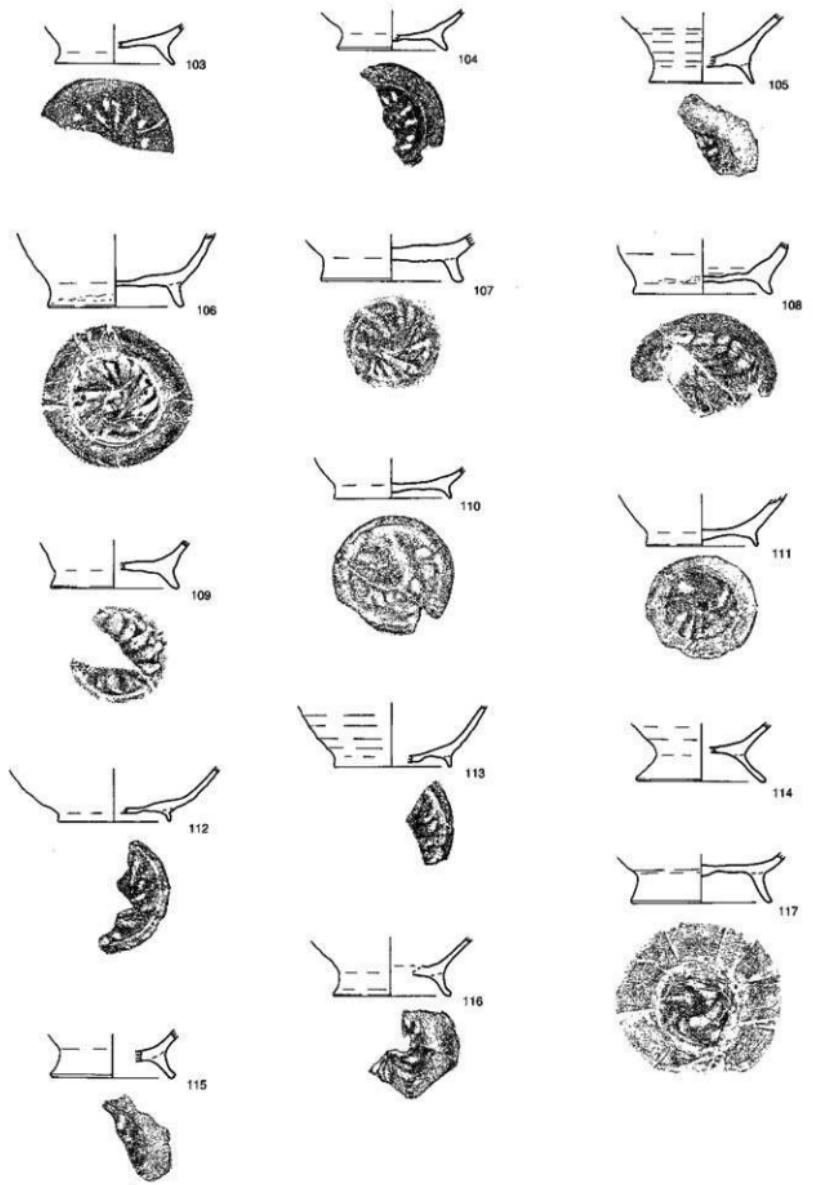
第7図 出土遺物実測図（3）



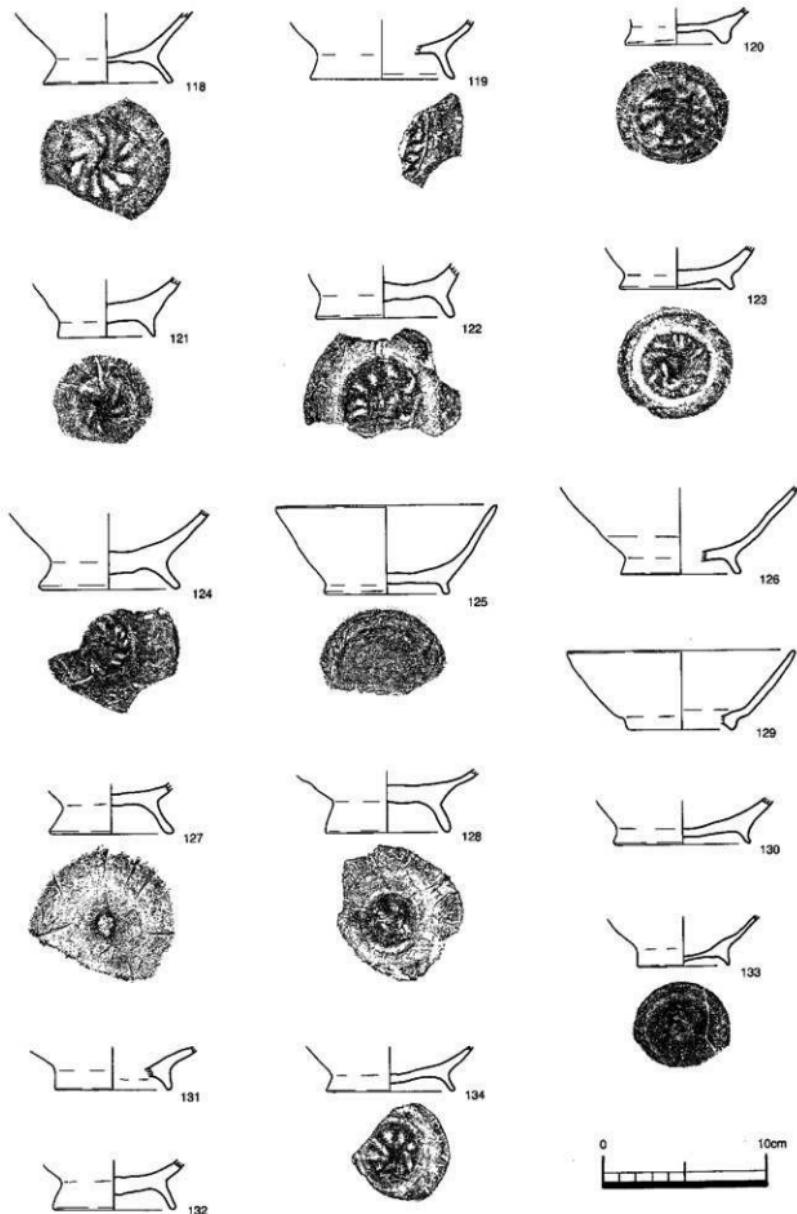
第8図 出土遺物実測図(4)



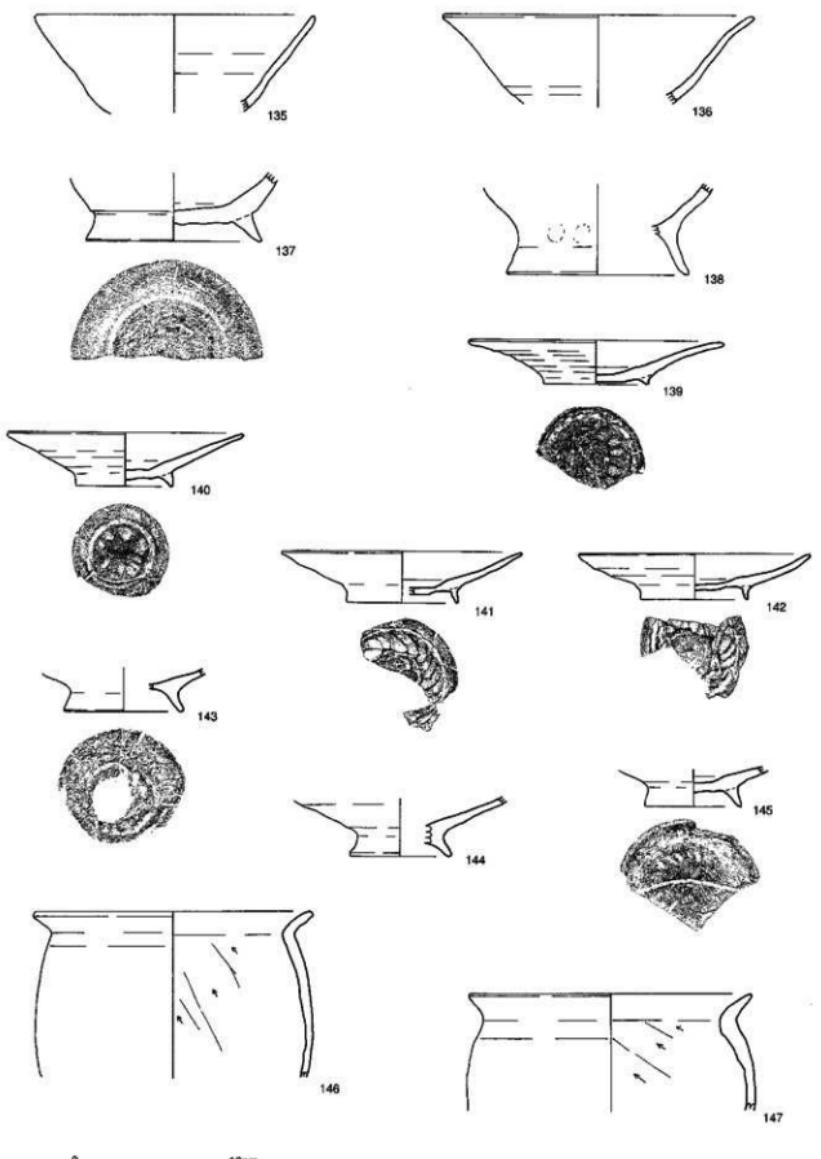
第9図 出土遺物実測図(5)



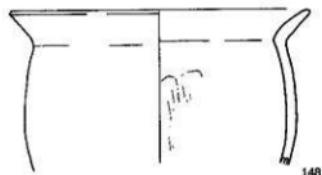
第10図 出土遺物実測図（6）



第11図 出土遺物実測図 (7)



第12図 出土遺物実測図 (8)



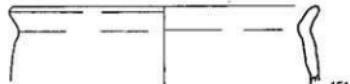
148



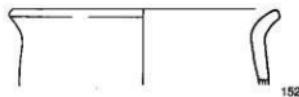
149



150



151



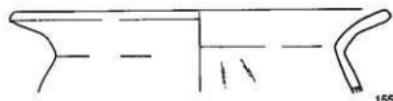
152



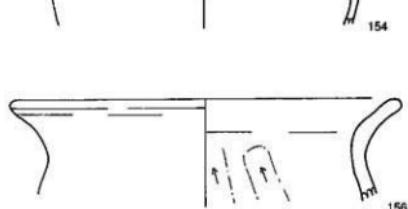
153



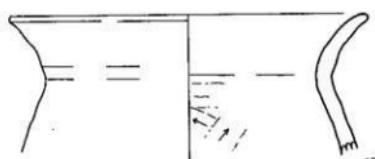
154



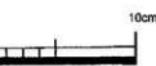
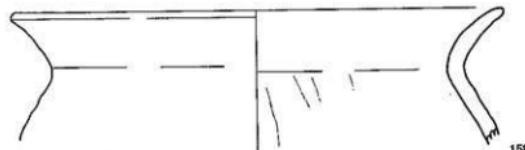
155



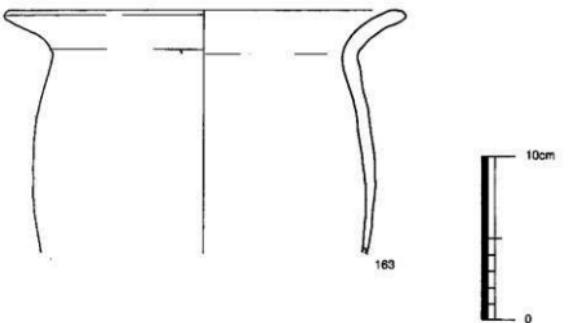
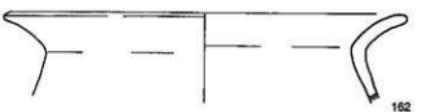
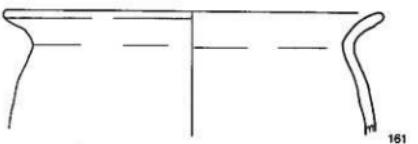
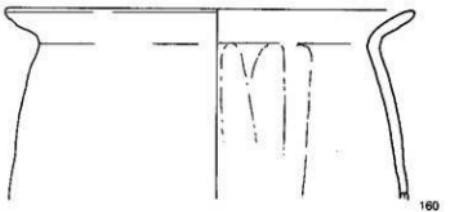
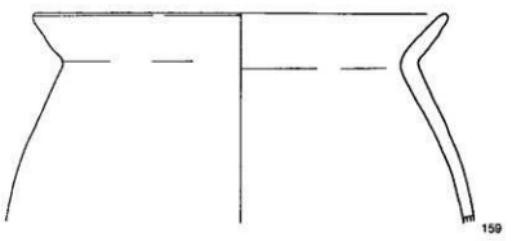
156



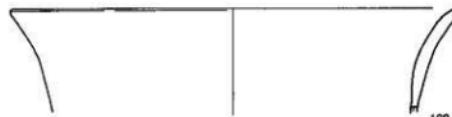
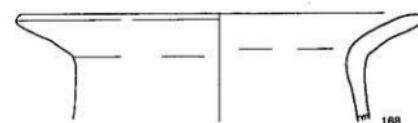
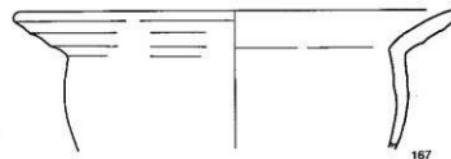
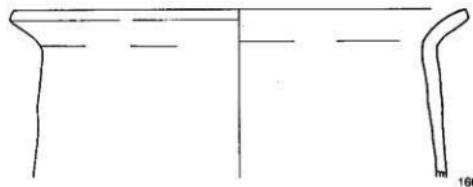
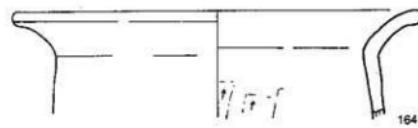
157



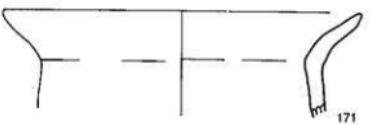
第13図 出土遺物実測図（9）



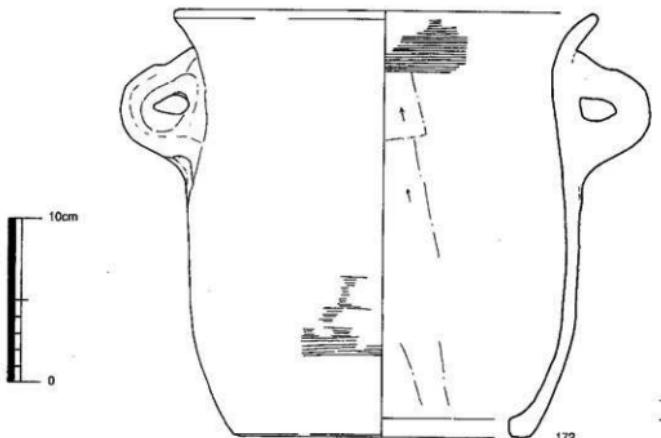
第14図 出土遺物実測図 (10)



第15図 出土遺物実測図 (11)

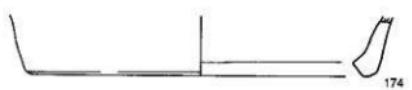


171

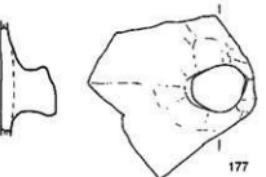


172

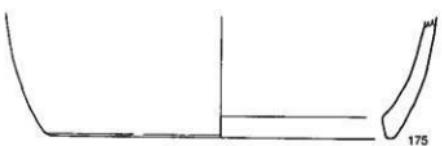
173



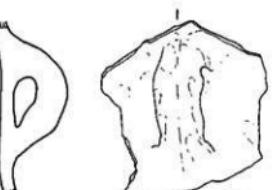
174



177



175

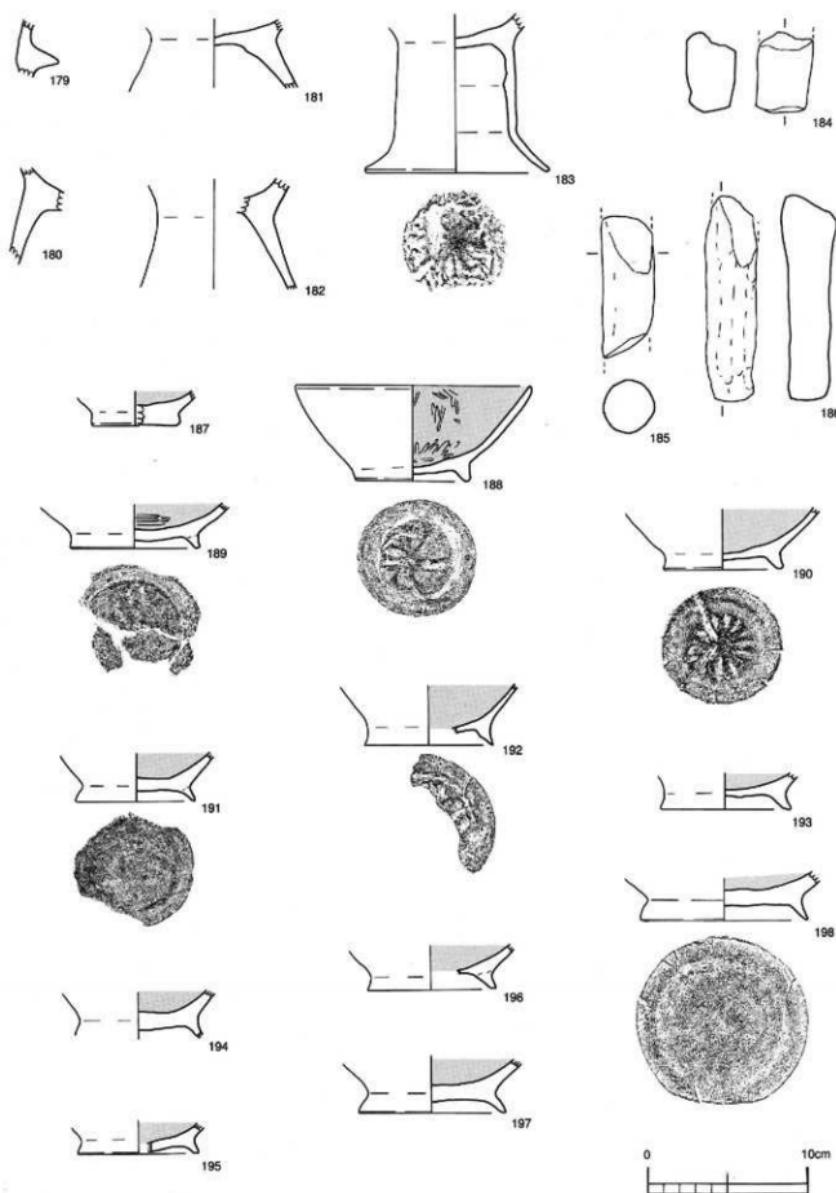


178

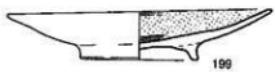


176

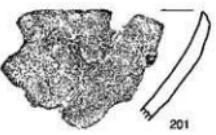
第16図 出土遺物実測図 (12)



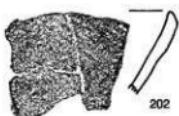
第17図 出土遺物実測図 (13)



200



201



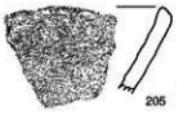
202



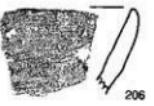
203



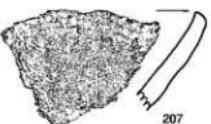
204



205



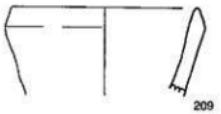
206



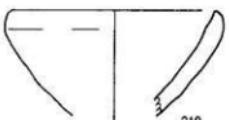
207



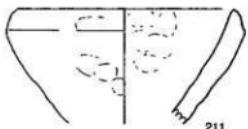
208



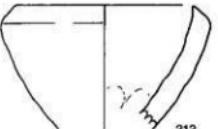
209



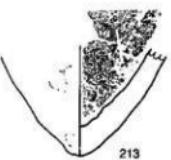
210



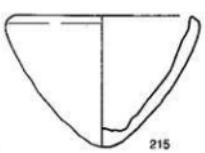
211



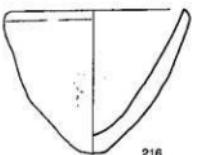
212



213



215



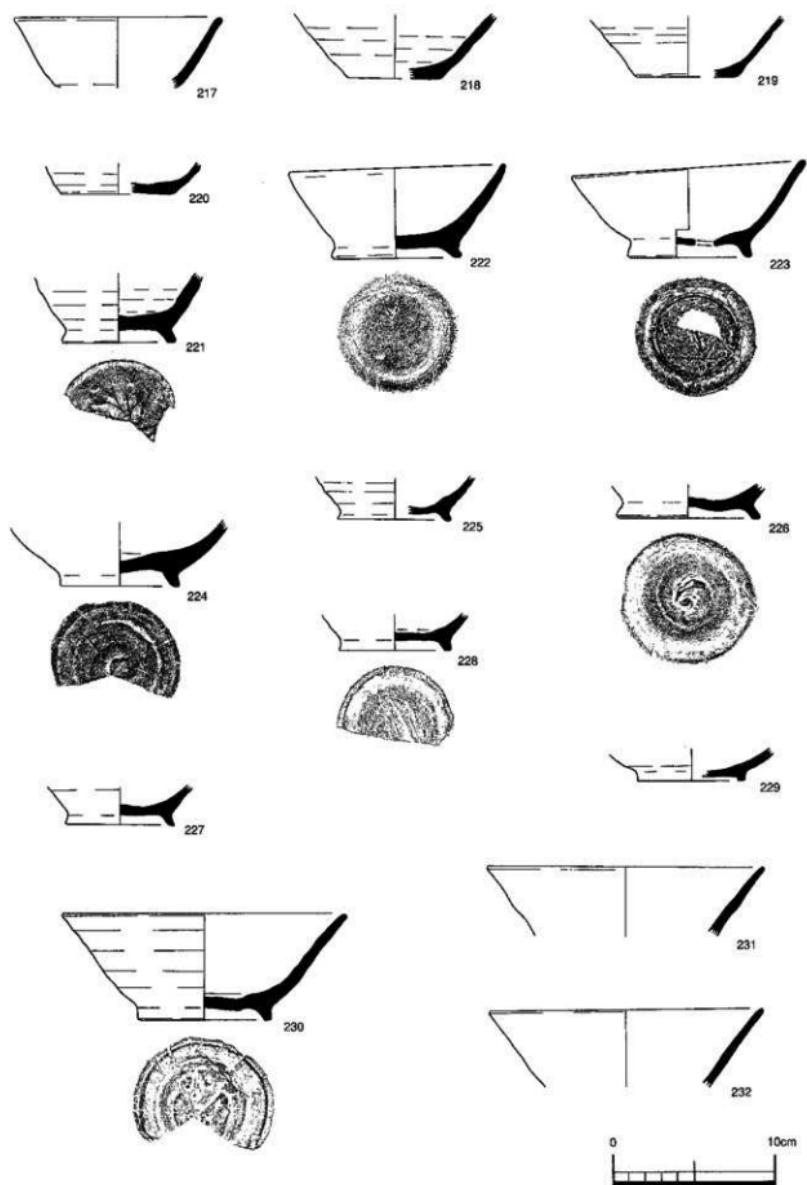
216



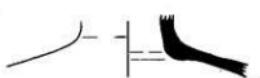
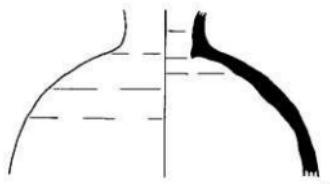
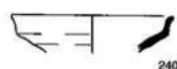
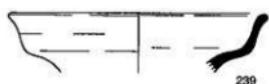
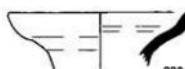
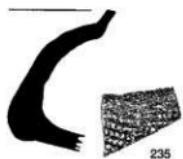
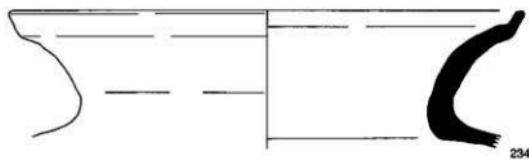
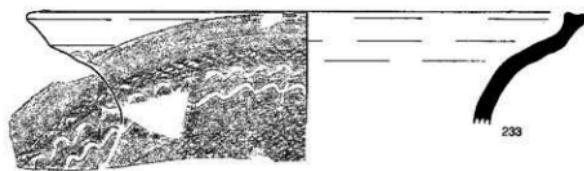
214



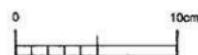
第18図 出土遺物実測図 (14)

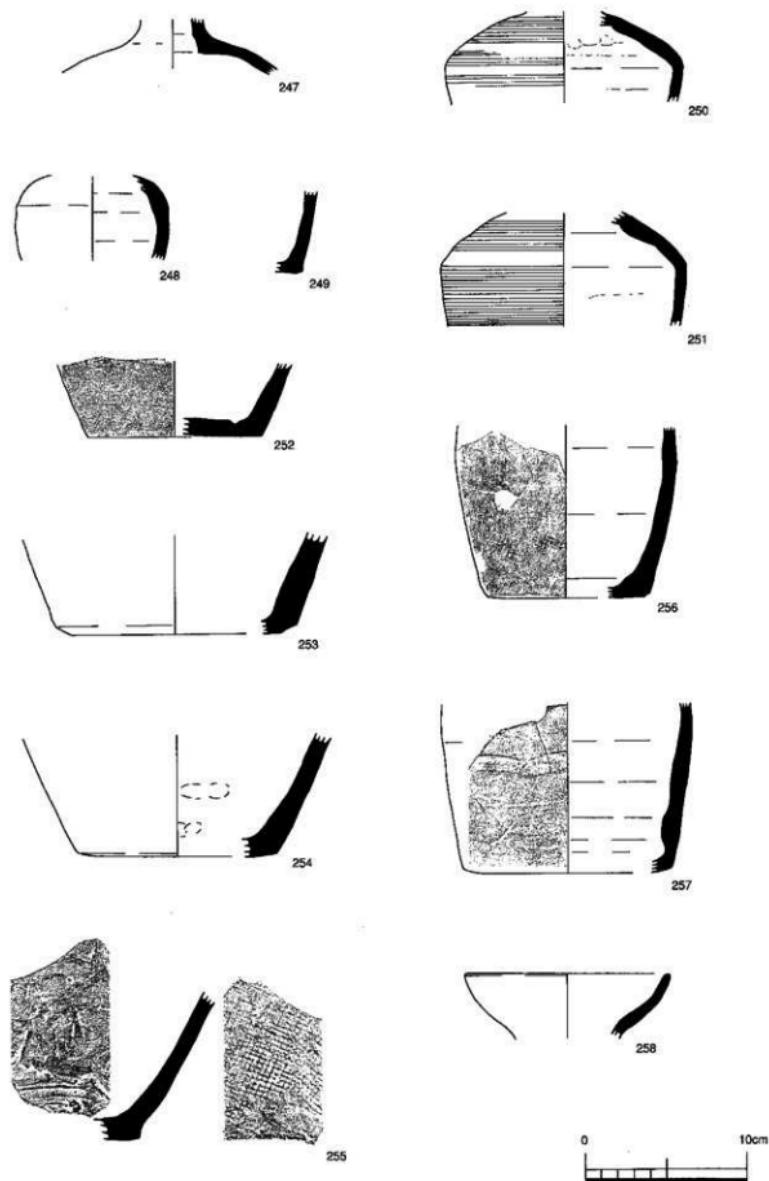


第19図 出土遺物実測図 (15)

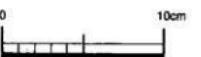
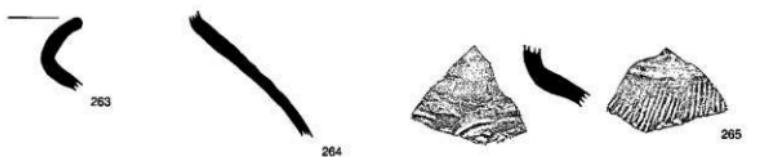
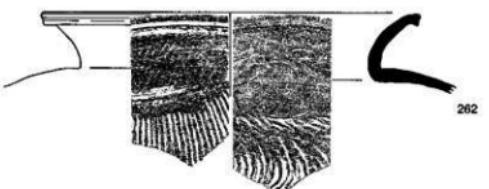
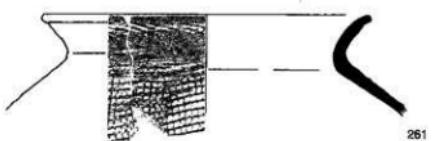
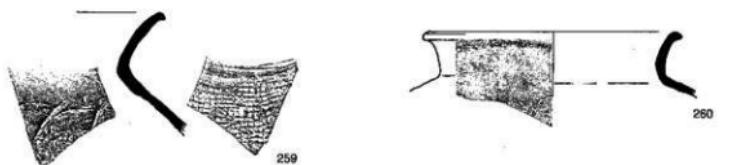


第20図 出土遺物実測図 (16)

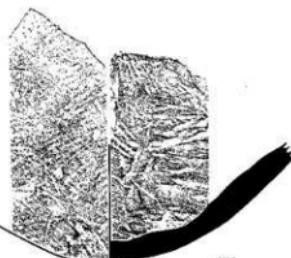
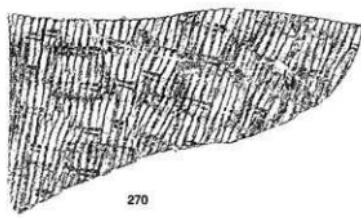
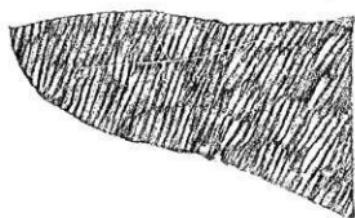
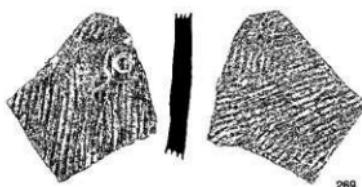




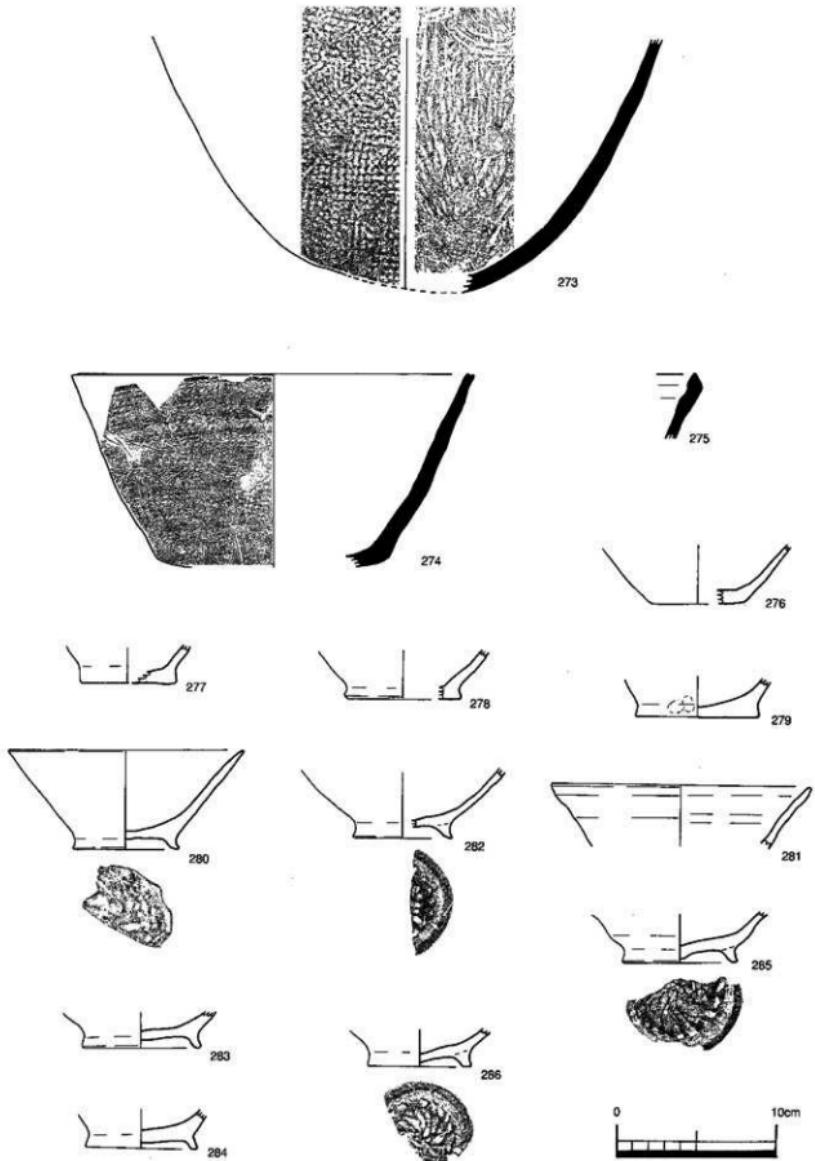
第21図 出土遺物実測図 (17)



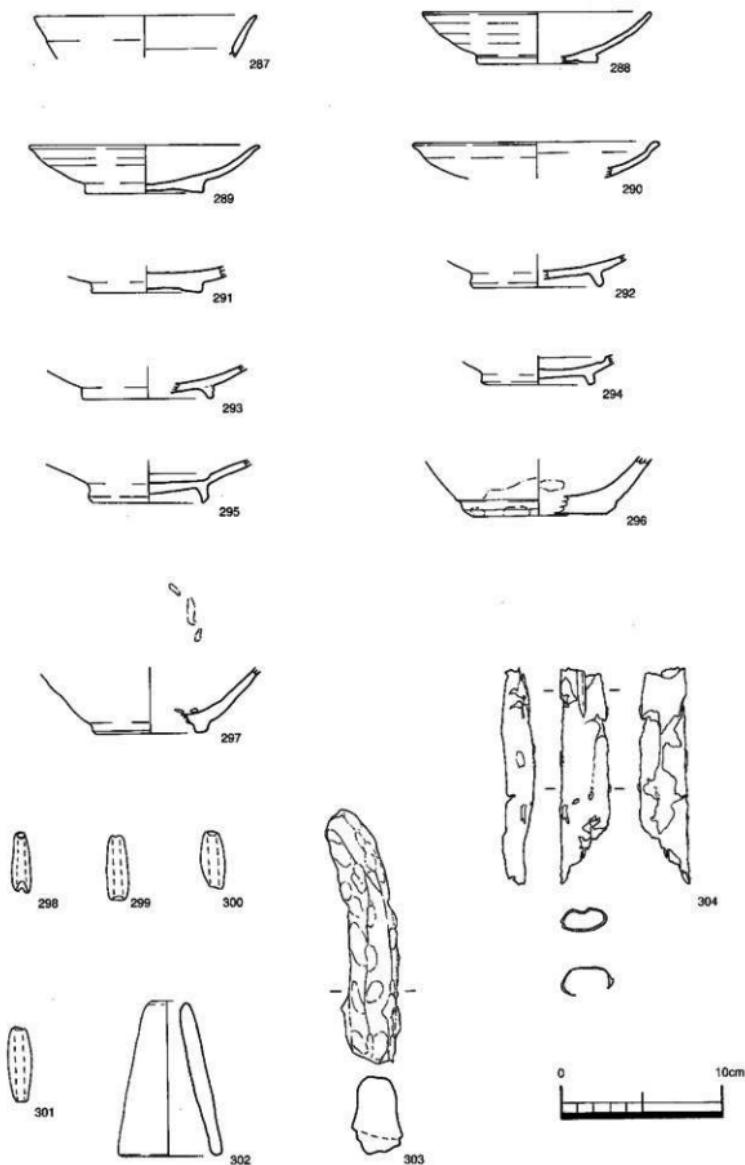
第22図 出土遺物実測図 (18)



第23図 出土遺物実測図 (19)



第24図 出土遺物実測図 (20)



第25図 出土遺物実測図 (21)

遺物 No.	種類	写真 番号	器種	法 身			調 整 等		色 調	胎 土	焼 成 考 察
				口径	底径	高さ	外 部	内 部			
1 5 4	土師器	杯	122	68	45		①③回転利用のナダ ④回転ヘア切り	摩耗の為不明	灰白色(10YR N/2)	乳白色粒を含む	やや 不良
2 5	土師器	杯	113	54	49		①③回転利用のナダ (底) ④回転ヘア切り	回転利用のナ ダ (摩耗)	淡黃褐色(7.5YR 8/8) ⑤橙色(SYR 7/6)	1mmの大乳白色粒・ 赤褐色粒を含む	良
3 5	土師器	杯	117	70	51		摩耗の為不明	摩耗の為不明	棕色(7.5YR 7/8) 灰白色(10YR 7/1)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・基母繊片・ 赤褐色粒・褐色粒を 含む	良
4 5	土師器	杯	121	50	48		摩耗の為不明	摩耗の為不明	棕色(SYR 6/6)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・基母繊片・ 褐色粒を含む	良
5 5	土師器	杯	116	60	44		①③回転利用のナダ ②回転ヘア切り	①③回転利用のナ ダ ④ナダ	棕色(SYR 6/8) 棕色(SYR 7/6)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・基母繊片・ 黑色粒を含む	良
6 5 4	土師器	杯	121	64	50	~140	①③回転利用のナダ ④回転ヘア切り	回転利用のナ ダ	棕色(2.5YR 6/8) 浅黃褐色(7.5YR 8/4)	1mmの大山褐色・透 明光沢粒・基母繊片・ 赤褐色粒を含む	良 底部に孔 有り
7 5 4	土師器	杯	132	66	45		①③回転利用のナ ダ ④回転ヘア切り	回転利用のナ ダ	棕色(SYR 7/6)	乳白色粒を含む	良
8 5 4	土師器	杯	129	66	48		①③回転利用のナ ダ ④回転ヘア切り	①~④回転利 用のナ ダ	棕色(2.5YR 6/8) 棕色(2.5YR 7/6)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・基母繊片・ 赤褐色粒を含む	良
9 5	土師器	杯	129	70	49		①回転利用のナ ダ ②摩耗の為不明	摩耗の為不明	に近い褐色(7.5YR 7/4)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・赤褐色 を含む	良
10 5	土師器	杯	135	65	46		摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/6) 棕色(7.5YR 7/8)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・基母繊片・ 赤褐色粒を含む	良
11 5	土師器	杯	133	69	46		①③摩耗の為不明 ④回転ヘア切り	摩耗の為不明	に近い黃褐色(10YR 7/4) 灰白色(10YR 8/2) 棕色(7.5YR 7/8)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・基母繊片・ 赤褐色粒を含む	良
12 5	土師器	杯	125	66	41		②③摩耗の為不明 ④器脚剥離	摩耗の為不明	灰白色(10YR N/2)	1mmの大乳白色粒・不 良 赤褐色粒を含む	不良
13 5	土師器	杯	117	64	40		摩耗の為不明	摩耗の為不明	に近い棕色(7.5YR 7/4)	1mmの大乳白色粒・小 良 赤褐色粒・褐色粒を 含む	良
14 5	土師器	杯	116	66	38		②③摩耗の為不明 ④回転ヘア切り	摩耗の為不明 摩耗の為小弱	棕色(7.5YR 7/6)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒・ 褐色粒を含む	良
15 5	土師器	杯	122	68	37		摩耗の為不明	摩耗の為不明	棕色(7.5YR 7/6)	1mmの大白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒・ 褐色粒を含む	良

番号 No.	持 物 名 称	規 格	計 量	法 量		調 整 等		色 調	貯 土	便 成	備 考
				上送 底径	器高	外 面	内 面				
16 5 4	土器器	杯	133	61	43	①③回転利用のナダ ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	にいむき色(5YR 7/4) 緑色(5YR 7/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒 を含む	良	
17 5	土器器	杯	132	60	40	回転利用のナダ (摩耗)	回転利用のナ ダ(摩耗)	緑色(5YR 7/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒 を含む	良	
18 5 4	土器器	杯	137	77	45	②摩耗の為不明 ③回転利用のナダ ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	浅黄褐色(10YR 8/3) 不明 ④透転利用のナダ	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒 を含む	良	
19 5	土器器	杯	129	67	43	②摩耗の為不明 ③回転利用のナダ ④摩耗の為不明	摩耗の為不明	緑色(7.5YR 7/6) 浅黄褐色(7.5YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒 を含む	良	
20 6	土器器	杯	133	70	38	①回転利用のナダ ③④摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黄褐色(7.5YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒 を含む	良	
21 6	土器器	杯	138	78	38	摩耗の為不明	回転利用のナ ダ	浅黄褐色(10YR 8/4) 浅黄褐色(7.5YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒 を含む	良	
22 6	土器器	杯	138	70	40	①③回転利用のナダ ④回転ヘラ切り後ナ ダ	①③回転利用 のナダ	明褐色(7.5YR 7/2) 緑色(5YR 7/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・黑色粒を 含む	良	
23 6 4	土器器	杯	136	70	51	②③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後ナ ダ	②③摩耗の為 不明 ④ナダ	黃褐色(7.5YR 7/8) 浅黄褐色(7.5YR 8/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片 ・赤褐色粒を含む	良	
24 6 4	土器器	杯	132	65	46	①③回転利用のナダ ④回転ヘラ切り	回転利用のナ ダ	浅黄褐色(10YR 8/5) 緑色(5YR 7/6) にいむき色(5YR 6/3) 黄褐色(2.5YR 5/1)	1mm大の乳白色粒 ・赤褐色粒を含む	良	
25 6	土器器	杯	136	64	50	①③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	にいむき色(7.5YR 7/4) 緑色(5YR 7/6)	乳白色粒・雲母・黑 色粒・赤褐色粒を含 む	良	
26 6 5	土器器	杯	134	73	39	①③回転利用のナダ ④回転ヘラ切り後ナ ダ	回転利用のナ ダ	浅黄褐色(10YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色粒 を含む	良	
27 6	土器器	杯	114			回転利用のナダ	回転利用のナ ダ	浅黄褐色(7.5YR 8/4) 沙状黄褐色(7.5YR 8/4)	黒色粒・乳白色粒 ・透明光沢粒・1mm の赤褐色粒を含む	良	
28 6	土器器	杯	130			透転利用のナダ	透転利用のナ ダ	浅黄褐色(7.5YR 8/6) 灰白色(10YR 8/2)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片 ・赤褐色粒を含む	良	
29 6	土器器	杯	143			回転利用のナ ダ	回転利用のナ ダ	⑤緑色(5YR 7/8) ⑥橙色(5YR 7/8)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・黑色粒を 含む	良	
30 6	土器器	杯	142			ナダ	ナダ	⑦浅黄褐色(7.5YR 8/4) ⑧浅黄褐色(7.5YR 8/4)	1mm大の黑色粒・透 明光沢粒・灰色粒・ 褐色粒を含む	良	

通物 No.	写真 図版	種別	器種	法量		調査等		色調	胎土	焼成	備考	
				口径	底径	器高	外 面					
31 6	上部器	杯	134				回転利用のナデ	回転利用のナデ	橙色(7.5YR 7/6) に赤褐色(10YR 6/4) 黄灰色(2.5Y 4/1)	1mm大の乳白色粒を 含む 黒色粒・透明光沢粒・ 赤褐色粒を含む	良	
32 6	上部器	杯	58				③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナ デ	回転利用のナ デ	淡赤褐色(2.5YR 7/4) ②淡赤褐色(2.5YR 7/4)	1mm大の黑色粒・褐 色粒・透明光沢粒・ 乳白色粒・赤褐色粒 を含む	良	
33 6	土器	杯	58				摩耗の為不明	ナデ	淡黃褐色(7.5YR)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒・ 赤褐色粒を含む	良	
34 6	上部器	杯					摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑤白色(2.5YR 8/1) ⑥灰白色(2.5YR 8/1)	白色粒・透明光沢粒 を含む	良	
35 6	土器	杯	66				摩耗の為不明	摩耗の為不明	①淡黃褐色(7.5YR 8/3) ②淡褐色(7.5YR 7/4) ③淡青褐色(7.5YR 8/3)	0.5mm以下の透明光 沢粒を含む 1mm大の黑色粒・白 色粒を含む	良	
36 6	土器	杯	48				③ナデ ④回転ヘラ切り	ナデ	④褐色(5YR 7/6) ⑤に赤褐色(5YR 7/3)	白色粒・褐色粒・透 明光沢粒を含む	良	
37 6	上部器	杯	56				③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナ デ	④に赤褐色(7.5YR 7/3) ⑤淡青褐色(7.5YR 8/3)	1mm大の赤褐色粒 茶褐色粒を含む	良	
38 6	土器	杯	63				①摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後ナ デ	摩耗の為不明	淡黃褐色(7.5YR 8/4) 淡褐色(7.5YR 8/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒・ 黑色粒・赤褐色粒を 含む	良	
39 6	上部器	杯	46				③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナ デ	④に赤褐色(10YR 7/4) ~灰白色(10YR 7/1) ⑤に赤褐色(7.5YR 7/4) ~灰黄色(2.5Y 7/2)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・黑色粒を 含む	やや 不良	
40 6	上部器	杯	70				摩耗の為不明	回転利用のナ デ(摩耗)	④淡黃褐色(7.5YR 8/4) ⑤褐色(5YR 7/6)	白色粒・黑色粒・透 明光沢粒・褐色粒・赤 褐色粒・黑色粒を含む	良	
41 6	土器	杯	60				③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナ デ	摩耗の為不明	④淡青褐色(7.5YR 8/4) ⑤淡褐色(5YR 8/4)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・黑色粒を 含む	良	
42 6	土器	杯	51				③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	淡黃褐色(7.5YR 8/4)	0.5mm以下の白色粒・ 透明光沢粒・赤褐色 粒・黑色粒を含む	良	
43 6	土器	杯	52				③摩耗の為不明 ④ヘラ切り	回転利用のナ デ	淡黃褐色(7.5YR 8/6)	1mm大の乳白色粒・ 黑色粒・褐色粒を含む	良	
44 6	土器	杯	54				ナデ	ナデ	④淡黃褐色(10YR 8/4) ⑤褐色(10YR 8/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒・ 黑色粒を含む	良	

遺物 No.	存 在 場 所	種別	器種	法 基		調 査 等		色 調	鉄 土	達 成 度 考
				口径	底径	高さ	外 面			
45 6	土器	杯		54		摩耗の為不明	摩耗の為不明	褐色(5YR 6/8) に赤い褐色(7.5YR 7/6)	1mmの大白色粒・透 明光沢・藍母層か 赤褐色粒を含む	良
46 6	土器	杯		56	③ナデ ④ヘラ切り		摩耗の為不明	⑤灰白色(10YR 8/2) ⑥浅黄褐色(10YR 8/3)	品色粒・透明光沢粒 を含む	良
47 6	土器	杯		60	摩耗の為不明	ナデ	ナデ	⑦灰白色(10YR 8/2) 浅黄褐色(7.5YR 8/4) ⑧灰白色(10YR 8/2)	白色粒・透明光沢粒 を含む 1mmの大乳白色粒を 含む	良
48 7	土器	杯		54	③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り		摩耗の為不明	浅黄褐色(7.5YR 8/4) 浅黄褐色(7.5YR 8/6)	乳白色をほとど含ま ない 赤褐色粒を含む	良
49 7	土器	杯		56	摩耗の為不明		摩耗の為不明	⑨淡褐色(5YR 8/4) ⑩淡褐色(5YR 8/4)	1mmの大透明光沢粒・ 赤褐色粒を含む	良
50 7	土器	杯		62	摩耗の為不明	ナデ	ナデ	⑪浅黄褐色(7.5YR 8/6) ⑫浅黄褐色(7.5YR 8/6)	微細な褐色粒・白色 粒を含む	良
51 7	土器	杯		58	ナデ	ナデ	ナデ	⑬浅黄褐色(7.5YR 8/4) ⑭浅黄褐色(7.5YR 8/4)	微細な透明光沢粒を 含む	良
52 7	土器	杯		57	③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナデ		ナデ	浅黄褐色(7.5YR 8/3)	乳白色粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良
53 7	土器	杯		58	摩耗の為不明		摩耗の為不明	浅黄褐色(10YR 8/3) 浅黄褐色(7.5YR 8/4)	1mmの大白色粒・透明 光沢粒・雲母細片・赤 褐色粒・黑色粒を含む	良
54 7	土器	杯		62	③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り		回転利用のナ デ	⑮浅黄褐色(7.5YR 8/3) ⑯浅黄褐色(7.5YR 8/4)	微細な透明光沢粒・ 黑色粒を含む	良
55 7	土器	杯		50	③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り		③回転利用のナ デ ナデ ナデ	⑰浅褐色(5YR 7/6) ⑱オリーブ褐色(5Y 3/1) ⑲ナデ	0.5mm以下の白色粒・ 透明光沢粒・白色粒 ・黑色粒を含む	良
56 7	土器	杯		56	摩耗の為不明		摩耗の為不明	⑳浅黄褐色(7.5YR 8/4) ㉑浅黄褐色(7.5YR 8/4)	白色粒・透明光沢粒・ 乳白色粒・赤褐色粒 を含む	良
57 7	土器	杯		57	③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り		摩耗の為不明	㉒灰白色(10YR 8/2) ㉓灰褐色(10YR 7/4) ㉔浅黄褐色(7.5YR 8/4)	0.5mmの大乳白色粒 を含む 赤褐色粒を含む	良
58 7	土器	杯		63	摩耗の為不明		回転利用のナ デ	㉕浅黄褐色(7.5YR 8/3) ㉖浅黄色(5YR 8/3)	0.5mmの大透明光沢 粒・白色粒・黑色粒・ 赤褐色粒を含む	良
59 7	土器	杯		68	①回転利用のナデ ④小明		回転利用のナ デ	㉗浅黄褐色(10YR 8/4)	1mmの大乳白色粒・雲 母細片・赤褐色粒を含む	良
60 7	土器	杯		65	①回転利用のナデ ②摩耗の為不明		回転利用のナ デ	㉘浅黄褐色(7.5YR 8/4) ㉙浅黄褐色(10YR 8/4)	0.5mmの大黑色粒・透 明光沢粒・白色粒を 含む	良

調査 No.	地 図 写 真	種別	器種	法 算			調 査 等		色 調	胎 土	模 式	備 考				
				口径	底径	器高	外 面	内 面								
							③ナデ(摩耗)	ナデ								
61	7	土師器	杯		62		③ナデ(摩耗) ④ヘラ切り	ナデ	⑤浅黄褐色(7.5YR 8/4) ⑥浅灰褐色(7.5YR 8/4)	微細な白色粒・黒色 粒を含む 1mm大の乳白色粒・灰 白色粒・褐色粒を含む	良					
62	7	土師器	杯		78		③回転利用のナデ ④回転ヘラ切り	回転利用のナ デ	⑤明褐色(7.5YR 7/2) ⑥灰褐色(10YR 7/2)	微細な白色粒・黒色粒・ 透明光沢料を含む	良					
63	7	土師器	杯		60		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	灰白色(2.5Y 8/2) 浅黄褐色(10YR 8/3)	0.5mm大の乳白色粒 を含む 赤褐色粒を含む	良					
64	7	土師器	杯		67		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後ナ デ	摩耗の為不明	褐色(5YR 7/6)	微粒~2mmの大白色 粒・透明光沢粒・黑 色粒・赤褐色粒・黑 母を含む	良					
65	7	土師器	杯		80		④ナデ(摩耗)	ナデ(摩耗)	⑦浅黄褐色(7.5YR 8/3) 灰色(N 5/) ⑧浅黄褐色(7.5YR 8/3)	微細な白色粒・黒色 粒・透明光沢料を含む 0.5mm~2mmの大乳白 色粒・褐色粒・灰色 粒を含む	良					
66	7	土師器	杯		74		③ナデ(摩耗) ④回転ヘラ切り	回転利用のナ デ(摩耗)	⑨浅黄褐色(7.5YR 8/4) 褐色(5YR 7/6)	微細な白色粒・黒色 粒・褐色粒・透明光 沢料を含む 0.5mm~2mmの大褐色 粒・灰色粒を少量含む	良					
67	7	土師器	杯		70		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	⑩灰白色(2.5Y 8/2) ⑪灰白色(2.5Y 8/2)	微細な白色粒・褐色 粒・透明光沢料を含む	良					
68	7	土師器	杯		64		摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑫灰白色(10YR 8/2) ⑬浅黄色(10YR 8/3)	微細な白色粒・黒色 粒・褐色粒・透明光 沢料を含む 1mm~3mmの大赤褐 色粒を含む	良					
69	7	土師器	杯		71		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	⑭浅黄褐色(10YR 8/4) ⑮浅褐色(5YR 8/4)	1mm大の乳白色粒・ 赤褐色粒を含む	良					
70	7	土師器	杯		68		摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑯浅黄褐色(7.5YR 8/4) 灰白色(10YR 8/2)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・深青細片・ 赤褐色粒を含む	良					
71	7	土師器	杯		69		摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑰灰褐色(7.5YR 7/3)	乳白色粒・黒色粒を 少量含む	良					
72	7	土師器	杯		76		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	⑲灰白色(7.5YR 8/2) ⑳灰白色(7.5YR 8/2)	微細な白色粒・褐色 粒・灰白色粒・透明光 沢料を含む 2~5mm大の褐色粒・ 灰色粒を少量含む	良					
73	7	土師器	杯		66		③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	㉑浅黄褐色(7.5YR 8/4) ㉒浅黄褐色(7.5YR 8/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・深青細片・ 赤褐色粒を含む	良					

遺物 No.	持 ち主 名	持 ち主 性別	種別	器種	法 量 L径 底径 器高	調 査 等		色 調	胎 土	焼 成 度	備 考		
						外 面	内 面						
74	7	上野鶴	杯		64	摩耗の為不明	摩耗の為不明	赤に近い黄褐色(10YR 7/3) ②浅黄褐色(7.5YR 8/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良			
75	8	土師器	杯		68	①回転利用のナデ ④回転ヘラ切り後ナ デ ④不明	③回転利用の ナデ ④回転ヘラ切り	灰白色(2.5YR 8/1) 灰白色(10YR 8/2)	乳白色粒・雲母細片 を含む	良			
76	8	土師器	杯		68	③回転利用のナデ(摩耗) ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	浅黄褐色(7.5YR 8/4) 灰白色(10YR 8/2)	微細粒・赤褐色粒を 含む	良			
77	8	十輪器	杯		64	③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り	摩耗の為不明	灰白色(10YR 8/2)	1mm大の赤褐色・ 品色粒・埴色砂粒・ 雲母を含む				
78	8	5	土師器 高台付 瓶		128	80	60	①③回転利用のナデ ⑤放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 6/6)	0.5mm大の白色粒・透 明光沢粒・黑色粒・ 赤褐色粒を多量含む	良	
79	8	5	土師器 高台付 瓶		146	64	57	①③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後 放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黄褐色(10YR 8/3) 浅黄褐色(7.5YR 8/4)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 黑色粒・赤褐色粒を 含む	良	
80	8	土師器 高台付 瓶			140	74	61	①③回転利用のナデ ④ヘラ切り後放射痕 (ケズリ)	ナデ	黄褐色(7.5YR 8/8) 黄褐色(7.5YR 7/8) 浅黄褐色(10YR 8/4)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
81	8	5	十輪器 高台付 瓶		141	72	58	①③摩耗の為不明 ④回転ヘラ切り後 放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	黄褐色(10YR 8/8) 黄褐色(7.5YR 8/8)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 黑色粒・赤褐色粒を 含む	良	
82	8	5	十輪器 高台付 瓶		158	74	58	①③回転利用のナデ ④放射痕	回転利用のナ デ	橙色(5YR 7/8) 橙色(5YR 6/8)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
83	8	土師器 高台付 瓶			140	70	64	①③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8) 橙色(7.5YR 7/6)	微細~2mm大の乳白 色粒・透明光沢粒・ 黑色粒・赤褐色粒を 含む	良	
84	8	5	十輪器 高台付 瓶		145	78	52	①③回転利用のナデ ④放射痕	②③回転利用 のナデ ④ナデ	浅黄褐色(7.5YR 8/4)	1mm大の乳白色粒・ 雲母細片・赤褐色粒 を含む	良	
85	8	上野鶴 高台付 瓶			70			①ナデ ④回転ヘラ切り後 放射痕(ケズリ)	回転利用のナ デ	帶色(5YR 7/8) 黃褐色(7.5YR 8/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
86	8	上野鶴 高台付 瓶			73			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(5YR 7/8)	微細~2mm大の白色 粒・透明光沢粒・赤 褐色粒を含む		
87	8	土師器 高台付 瓶			67			③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	橙色(5YR 6/8) 明赤褐色(2.5YR 5/8)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	

通物 No.	種 別	種 別	器種	法 量				調 整 等	色 調	助 土	施 成	備 考
				口径	底径	器高	外 面					
88 9	土師器	高台付 碗		68			③摩耗の為不明 ④放射痕	回転利用のナ デ	褐色(SYR 7/6)	0.5mm以下の乳白色 粒を少量含む	良	
89 9	土師器	高台付 碗		78			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	赤灰白色(10YR 8/2) ⑤灰白色(SYR 8/2)	微細な白色・透明光 沢粒を含む	良	
90 9	土師器	高台付 碗		74			③ナデ ④放射痕	ナデ	⑥浅黄褐色(7.5YR 8/6) ⑦浅黄褐色(7.5YR 8/6)	微細な白色・透明 光沢粒を含む 0.5~3mmの大・半透明・乳 白色粒・赤褐色を含む	良	
91 9	土師器	高台付 碗		76			⑧回転利用のナデ ⑨放射痕(ケズリ)	ナデ	にぼい褐色(7.5YR 7/4)	乳白色粒・赤褐色粒 を含む	普通	
92 9	土師器	高台付 碗		73			⑩摩耗の為不明 ⑪放射痕	摩耗の為不明	浅黄褐色(7.5YR 8/4)	概ね~3mmの大・白色 粒・透明光沢粒・赤 褐色粒・黑色粒を含む	小良	赤?
93 9	土師器	高台付 碗		72			⑫摩耗の為不明 ⑬へラ切り後放射痕	摩耗の為不明	褐色(SYR 7/6)	乳白色粒・赤褐色粒 を少量含む	やや 不良	
94 9	土師器	高台付 碗		75			⑭回転利用のナデ ⑮放射痕	摩耗の為不明	浅黄褐色(10YR 8/4)	乳白色粒・露骨・黑 色粒を少量含む	良	
95 9	土師器	高台付 碗		77			⑯摩耗の為不明 ⑰放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	褐色(2.5YR 6/6)	1mmの大・白色粒・透 明光沢粒・黑色粒を 含む	良	
96 9	土師器	高台付 碗		70			⑱回転利用のナデ ⑲放射痕	回転利用のナ デ	⑳褐色(SYR 7/6) ㉑橙色(SYR 7/6)	表面的な灰褐色・乳白色 粒・透明光沢粒を含む 1mmの大・白色粒・黑 色粒を含む	良	
97 9	土師器	高台付 碗		70			㉓摩耗の為不明 ㉔放射痕	摩耗の為不明	にぼい褐色(7.5YR 7/4)	乳白色粒・赤褐色粒 を含む	良	
98 9	土師器	高台付 碗		78			㉕回転利用のナ デ ㉖放射痕(ケズリ)	回転利用のナ デ	㉗褐色(2.5YR 7/6) ㉘浅黄褐色(10YR 8/4)	乳白色粒・赤褐色 粒を含む	良	
99 9	土師器	高台付 碗		74			㉙回転利用のナ(摩耗) ㉚放射痕(ケズリ)	回転利用のナ デ(摩耗)	㉛褐色(SYR 7/6)	透明光沢粒・赤褐色 粒を含む		
100 9	土師器	高台付 碗		66			㉜回転利用のナデ ㉝放射痕	原耗の為不明	㉞褐色(7.5YR 7/8) ㉟褐色(5YR 6/8)	1mmの大・白色粒・透 明光沢粒・露骨・黑 色粒を含む	良	
101 9	土師器	高台付 碗		86			㉞摩耗の為不明 ㉟放射痕	摩耗の為不明	㉞浅黄褐色(7.5YR 8/6) ㉟褐色(5YR 7/8)	1mmの大・白色粒・透 明光沢粒・露骨・黑 色粒を含む	良	
102 9	土師器	高台付 碗		69			㉞摩耗の為不明 ㉟放射痕	摩耗の為不明	㉞褐色(SYR 7/8)	1mmの大・白色粒・透 明光沢粒・露骨・黑 色粒を含む		
103 10	土師器	高台付 碗		74			㉞摩耗の為不明 ㉟放射痕	摩耗の為不明	㉞褐色(SYR 7/6) ㉟橙色(SYR 7/6)	微細な白色粒・黑色 粒・透明光沢粒を含む 1~4mmの大・白色粒・ 乳白色粒を含む		

植物 No.	採 集 地	写真 図版	種別	特徴	法量		調整等		色調	粘土	硬 度	備 考	
					口径	底径	器高	外面					
104	10	上部器 高台付 純			68			③倒転利用のナ デ ④放射痕	倒転利用のナ デ	⑤橙色(SYR 7/6) ⑥褐色(SYR 7/6)	微細な白色粒・褐色 粒・透明光沢粒を含む 1mm大の白色粒・灰 色粒を含む	良	
105	10	土師器 高台付 純			64			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	⑤橙色(7SYR 7/6) ⑥褐色(SYR 6/6)	乳白色粒・赤褐色 粒を含む	良	
106	10	土師器 高台付 純			80			③倒転利用のナ デ ④放射痕(ケズリ) ⑤ナデ	倒転利用の ナデ ④ナデ	⑤灰白色(10YR 8/2) ⑥浅黃褐色(10YR 8/3)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
107	10	土師器 高台付 純			86			③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	⑤黄褐色(7SYR 7/6) ⑥浅黃褐色(7SYR 8/4)	微粒～2.5mm大の透 明光沢粒・白色粒・ 赤褐色粒を含む	良	
108	10	土師器 高台付 純			82			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	⑤浅黃褐色(10YR 8/3) ⑥灰白色(SY 8/1) ⑦浅黃褐色(10YR 8/5)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
109	10	土師器 高台付 純			76			③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黃褐色(7SYR 8/4)	乳白色粒を含む 赤褐色粒を少量含む	良	
110	10	土師器 高台付 純			72			③摩耗の為不明 ④放射痕		⑤浅黃褐色(7SYR 8/3) ⑥浅黃褐色(7SYR 8/3)	微細な透明光沢粒を 含む 0.5～2mm大の赤褐色 粒を含む	良	
111	10	土師器 高台付 純			67			③摩耗の為不明 ④放射痕	ナデ(摩耗)	褐色(SYR 7/8)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・赤褐色粒 を含む	良	
112	10	土師器 高台付 純			68			③倒転利用のナ デ ④放射痕	倒転利用のナ デ	⑤浅黃褐色(7SYR 8/6) ⑥褐色(SYR 7/8)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
113	10	土師器 高台付 純			73			③倒転利用のナ デ ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	褐色(SYR 7/6)	0.5mm以下の透明光 沢粒・白色粒・赤褐 色粒を少量含む	良	
114	10	土師器 高台付 純			79			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	⑤にぶい黃褐色 (10YR 7/4) ⑥褐色(SYR 7/6)	1mm大の透明光沢粒・ 白色粒・黑色粒・水 楊色粒を含む		
115	10	土師器 高台付 純			72			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	⑤(浅黃褐色(7SYR 8/4) 褐色(7SYR 7/6) ⑥橙色(SYR 7/8)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
116	10	土師器 高台付 純			72			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	褐色(2SYR 6/8)	微粒～1mm大の透 明光沢粒・赤褐色粒を 含む	良	縫孔?
117	10	土師器 高台付 純			84			③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	浅黃褐色(10YR 8/4)	微粒～1mm大の白色 粒・透明光沢粒・赤 褐色粒を含む	良	

番 号 No.	探 査 面 面積	種別	剖面	法 蓋		調 査 等		色 調	地 上	地 成	備 考	
				口径	底深	基高	外 面					
118 11	土器部	高台付 瓶		76			③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズ)	圓柱利用のナ デ	浅黃褐色(7.5YR 8/6) 黄褐色(7.5YR 8/8)	1~2mm大の透明光 沢紋・雲母細片・赤 褐色粒を含む	良	
119 11	土器部	高台付 瓶		88			③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズ)	摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/4)	微粒~1mm大の乳白 色粒・赤褐色粒を含 む		
120 11	土器部	高台付 瓶		64			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	黃褐色(7.5YR 8/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢紋・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
121 11	土器部	高台付 瓶		60			③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明 ④浅黃褐色(7.5YR 8/3) ⑤浅黃褐色(7.5YR 8/3)	微細な白色粒・黑色 粒・透明光沢紋を含む	良		
122 11	土器部	高台付 瓶		84			③摩耗の為不明 ④同上へラ切り後 深い放射痕	摩耗の為不明	浅黃褐色(10YR 8/3)	微粒~2mm大の白色 粒・透明光沢紋・黑 色粒を含む		
123 11	土器部	高台付 瓶		68			③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズ)	摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/6) 橙色(7.5YR 7/6)	1mm大の白色粒・透 明光沢紋・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
124 11	土器部	高台付 瓶		82			③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズ)	摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/6)	乳白色粒・赤褐色粒 を少量含む		
125 11	土器部	高台付 瓶	135	74	54		①⑤摩耗の為不明 ④ナデ	ナデ	黃褐色(10YR 8/6) 浅黃褐色(10YR 8/3)	1mm大の白色粒・透 明光沢紋・雲母細片・ 赤褐色粒・黑色粒を 含む	良	
126 11	土器部	高台付 瓶		74			摩耗の為不明	摩耗の為不明	淡褐色(5YR 8/4) (底部)において青褐色 (10YR 7/4)	1mm大の透明光沢紋・ 白色粒・黑色粒・赤 褐色粒・雲母を含む	良	底部に黒斑
127 11	土器部	高台付 瓶		77			圓柱利用のナデ ナデ	摩耗の為不明	に赤褐色(10YR 7/3)	1mm大の透明光沢紋・ 白色粒・黑色粒・赤 褐色粒・黑色粒を 少量含む		
128 11	土器部	高台付 瓶		75			③摩耗の為不明 ④圓柱利用のナデ 摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黃褐色(10YR 8/4)	0.5mm大の透明光沢 粒・白色粒・赤褐色 粒を含む	良	
129 11	土器部	高台付 瓶	139	65	49		摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/6) ~橙色(7.5YR 7/6)	0.5mm大の白色粒・透 明光沢紋を含む	良	
130 11	土器部	高台付 瓶		82			摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/6)	乳白色粒・赤褐色粒 を含む	良	
131 11	土器部	高台付 瓶		70			摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黃褐色(10YR 8/4)	1mm大の白色粒・透 明光沢紋・赤褐色粒・ 黑色粒を含む	良	
132 11	土器部	高台付 瓶		76			ナデ ヘラ切り	ナデ	②浅黃褐色(7.5YR 8/3) ⑤浅黃褐色(7.5YR 8/3)	微細な赤褐色粒・白 色粒・黑色粒・透明 光沢紋を含む		

農地 No.	写真 図版	標別	器種	法 益		調 整 等		色 調	底 土	地 成	捕 者
				口括 延長	春高	外 面	内 面				
133 11		土器部 高台付 鉢		57		③摩耗の為不明 ④ヘラ切り後ナダ	摩耗の為不明	⑤灰色(SYR 5/1) 淡黄褐色(7.5YR 8/3) ⑥浅黄褐色(10YR 8/3)	斑雜な白色粒・褐色 粒・透明光沢粒を含む 1mmの大粒白色粒を含む	良	
134 11		土器部 高台付 鉢		80		③摩耗の為不明 ④	摩耗の為不明	淡黄褐色(7.5YR 8/6)	乳白色粒と雲母を含む	良	
135 12		土器部 大鉢	175			回転利用のナデ	回転利用のナ デ	⑦浅黄褐色(10YR 8/3) ⑧淡黄褐色(7.5YR 8/6)	1mmの大粒白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
136 12		土器部 大鉢	192			回転利用のナデ	回転利用のナ デ	褐色(7.5YR 7/6) 橙色(SYR 6/8)	1mmの大粒白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
137 12		土器部 大鉢	107			③摩耗の為不明 ④ヘラ切り後ナダ	摩耗の為不明	橙色(SYR 7/6)	微粒・1mmの大粒白 色粒・透明光沢粒・ 黑色砂粒・雲母を含む	良	
138 12		土器部 大鉢	110			③摩耗の為不明 回転利用のナデ(反ひ)	摩耗の為不明	にいい橙色(SYR 7/4)	乳白色粒を含む 赤褐色粒を少量含む	良	
139 12 5		土器部 高台付 鉢	157	62	27	①③回転利用のナデ ④放射痕	摩耗の為不明	淡橙色(SYR 7/8) 淡黄褐色(7.5YR 8/4) ⑤橙色(SYR 7/6)	1mmの大粒白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 赤褐色粒を含む	良	
140 12 5		土器部 高台付 鉢	143	59	38	①③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(7.5YR 7/6)	微粒・2mmの大粒白 色粒・透明光沢粒・水 黑色粒・雲母を含む	良	
141 12		土器部 高台付 皿	146	39	31	①③摩耗の為不明 ④放射痕(ケズリ)	①③摩耗の為 不明 ④ナデ	橙色(SYR 7/8) 橙色(SYR 7/6)	1mmの大粒白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・ 黑色砂粒・赤褐色粒を含む	良	
142 12		土器部 高台付 皿	140	66	28	③摩耗の為不明 ④回転・ヘラ切り後 放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 7/8)	微粒・1mmの大粒白 色粒・透明光沢粒・赤 褐色粒を含む	良	
143 12		土器部 高台付 皿		72		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/4)	赤褐色粒を含む	良	
144 12		土器部 高台付 皿		62		③回転利用のナデ ④放射痕	摩耗の為不明	橙色(SYR 7/6)	0.5mm以下の透明光 沢粒・白色粒・赤褐色 粒を少量含む	良	
145 12		土器部 高台付 皿		60		③摩耗の為不明 ④放射痕	摩耗の為不明	淡褐色(5YR 8/4)	微粒・1mmの大粒白 色粒・赤褐色粒を含む		
146 12		土器部 甕	168			①②回転利用のナデ ③ナデ ④ケズリ	①②回転利用 のナデ ③ケズリ	④にいい橙色 (10YR 6/4) ⑤にいい橙色(SYR 7/4)	微粒・3mmの大粒白 色粒・透明光沢粒・黑 色粒と雲母を含む	⑪スヌ付着	
147 12		土器部 甕	172			摩耗の為不明	①③摩耗の為 不明 ③ケズリ	橙色(7.5YR 6/6)	微粒・3mmの大粒白 色粒・透明光沢粒・黑 色粒・赤褐色粒と雲 母を含む	⑫スヌ付着	

番 物 No.	形 状	年 代	國 原	種別	器種	法 基		調 査 等		色 調	胎 土	燒 成	備 考
						口径	底径	器高	外 面	内 面			
148 13	土師器	甕	182			摩耗の為不明			①摩耗の為不明 ③ケズリ?	青色(5YR 6/8) 黄褐色(7.5YR 7/8)	1~2mmの大白色粒・透 明光沢粒・雲母細片・黑 色粒・赤褐色粒を含む	良	
149 13	土師器	甕	161			①②回転利用のナデ ③摩耗の為不明			①回転利用のナデ ③摩耗の為不明	に bei 黄褐色(5YR 6/4)	0.5mmの大透明光沢 粒・白色粒・黑色粒・ 赤褐色粒を含む	良	
150 13	土師器	甕	132			摩耗の為不明			摩耗の為不明	④灰白色(10YR 8/2) ⑤灰白色(10YR 8/2)	微細な透明光沢粒・0.5 ~2mmの大白色粒・灰白 色粒・乳白色粒を含む	良	
151 13	土師器	甕	187			摩耗の為不明			摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/6)	1mm以下の白色粒・ 透明光沢粒・黑色粒 を含む	良	◎スス付者
152 13	土師器	甕	163			摩耗の為不明			摩耗の為不明	浅黃褐色(10YR 8/3) 浅黃褐色(7.5YR 8/6)	1~2mmの大白色粒・透 明光沢粒・雲母細 片・黑色粒・赤褐色 粒を含む	良	
153 13	土師器	甕	170			ナデ			ナデ(摩耗)	④浅黃褐色(7.5YR 8/6) ⑤浅黃褐色(7.5YR 8/6)	微細な黑色粒・透明 光沢粒を含む 0.5~3mm人の乳白色 粒・灰色粒・褐色粒・ 黑色粒を含む	良	
154 13	土師器	甕	106			①回転利用のナデ ③摩耗の為不明			回転利用のナ デ	褐色(5YR 6/6)	1~3mmの大透明光 沢粒・白色粒・黑色粒・ 雲母を少量含む	良	
155 13	土師器	甕	227			摩耗の為不明 工具痕あり			①摩耗の為不 明 ③ケズリ?	に bei 黄褐色 (7.5YR 7/4) ④浅黃褐色(7.5YR 8/3)	微粒~5mmの大白色 粒・透明光沢粒と赤 褐色粒を含む	不良	
156 13	土師器	甕	230			①回転利用のナデ ③ナデ			①回転利用のナ デ ③ナデ ③ケズリ?	に bei 黄褐色 (10YR 7/4)	微粒~2mmの大透明 光沢粒・白色粒・赤 褐色粒・黑色粒と雲 母を含む		
157 13	土師器	甕	217			①回転利用のナデ ③ナデ			①回転利用のナ デ 工具痕あり ③ケズリ(摩耗)	浅黃色(2.5Y 7/3)	微粒~2mmの大白色 粒・透明白光沢粒・黑 色粒と雲母を含む		
158 13	土師器	甕	298			摩耗の為不明			①摩耗の為不 明 ③ケズリ?	褐色(5YR 6/8)	微粒~4mmの大透明 光沢粒・白色粒・黑 色粒と赤褐色粒を含む	◎スス付者	
159 14	土師器	甕	252			摩耗の為不明 ③ナデ(摩耗)			摩耗の為不明 ③ケズリ(摩耗)	に bei 黄褐色(7.5YR 7/4)	1~2mm人の透明光 沢粒・白色粒・黑色粒・ 赤褐色粒を含む	良	
160 14	土師器	甕	254			摩耗の為不明			①摩耗の為不 明 ③ケズリ?	橙色(5YR 7/8 6/8) 浅黃褐色(7.5YR 8/6)	1~2mmの大白色粒・ 透明白光沢粒多量に 含む 雲母細片・黑色粒・ 赤褐色粒を含む	良	

建物 No.	地 図 番 号	種別	基盤 口径	法 規		調 査 等		色 調	治 上	表 皮	備 考		
				外 径	内 径	外 径	内 径						
161	14	上部器	光	230		摩耗の為不明	摩耗の為不明	に赤い黄褐色(10YR 7/3) 浅黄褐色(10YR 8/4) 灰黄褐色(10YR 6/2)	1~5mmの大いな小石を含む 白色粒・赤褐色粒・ 透明光沢粒を含む	良			
162	14	上部器	透	240		ハク離の為不明	ハク離の為不明	淡黄褐色(10YR 8/4) 橙色(SYR 6/8)	1~2mmの大いな白色粒・ 明るい粒・雲母片・赤 褐色粒・黑色粒を含む	良			
163	14	6	土部器	透	238		摩耗の為不明	摩耗の為不明	④淡黄褐色(7.5YR 8/6) ～褐色(2.5YR 6/6) ⑤浅黄褐色(7.5YR 8/6) ～褐色(SYR 7/8)	1~2mmの大いな白色粒・ 透明光沢粒を含む 黑色粒・赤褐色粒を含む	良		
164	15	土部器	透	248		摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(SYR 7/6)	0.5~1mmの大いな透明光 沢粒・黑色粒を含む 黑色粒・白色粒を少含む	良			
165	15	土部器	透	235		摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(SYR 7/8)	1~2mmの大いな透明光 沢粒・白色粒を含む 黑色粒を少量含む	良			
166	15	土部器	透	276		摩耗の為不明	①摩耗の為不 明 ②焼入る ③ケズリ	橙色(SYR 6/8) 褐色(SYR 7/8)	1~2mmの大いな白色粒・透 明光沢粒を多量に含む 黒母岩片・黑色粒・ 赤褐色粒を含む	良			
167	15	6	上部器	光	267		摩耗の為不明 ①焼入る	摩耗の為不明 ②焼入る ③ケズリ(摩耗)	黄褐色(7.5YR 7/8) 褐色(7.5YR 6/8) 褐色(SYR 7/8)	1~2mmの大いな白色粒・透 明光沢粒を多量に含む 岩母岩片・黑色粒・ 赤褐色粒を含む	良		
168	15	土部器	透	242		①透析利用のナデ 指標圧度あり ②ナデ	①透析利用の ナデ ナデ ②ケズリ(摩耗)	に赤い褐色(7.5YR 5/4)	1~2mmの透析光沢粒・ 白色粒を含む 黑色粒を少量含む	良			
169	15	土部器	透	274		摩耗・剥離の為不明	摩耗・剥離の 為不明	橙色(SYR 7/6)	1~2mmの大いな白色粒・ 透明光沢粒を含む 赤褐色粒を含む	良			
170	15	上部器	透			摩耗の為不明(ナデ)	摩耗の為不明 (ナデ)	④淡黄褐色(7.5YR 8/4) ⑤褐色(SYR 7/6)	微細な白色粒・黑色 粒・透析光沢粒を含む 0.5~3mmの大いな白色 粒・赤褐色粒・黑色 粒・透析光沢粒を含む	良			
171	16	土部器	透	220		摩耗の為不明	①摩耗の為不 明 ②ケズリ	⑥淡褐色(SYR 8/3) 杏仁色(2.5YR 7/6)	1~6mmの大いな白色粒・ 0.5~3mmの大いな白色 粒・灰色粒・0.5mmの大 いな白色粒・透析光 沢粒を含む	良			
172	16	6	土部器	透	254	184	260	①ナデ(指標圧度あり) ②ケズリ(摩耗) 剥離・摩耗の為不明	①ハク ②ケズリ ③モルタルの為不明	杏仁いし褐色(7.5YR ～褐色(SYR 7/6) ④杏仁色(SYR 7/6) ～赤褐色(SYR 4/6)	1mmの大いな白色粒・透 明光沢粒・黑色粒を含む 赤褐色粒を含む	良	
173	16	土部器	透			摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(7.5YR 6/8) 杏仁色(SYR 6/8)	1~2mmの大いな白色粒・透 明光沢粒・黑色粒・赤褐色 粒を含む	良			

地物 No.	種 別	年 代	性 質	標 高	法 量		調 査 等		色 調	砂 土	燒 成	備 考	
					口徑	底深	容 積	外 面	内 面				
174 16	土器器	灰		210			摩耗の為不明		摩耗の為不明	灰色(SYR 7/8)	微粒~4mm大的赤褐色 粒·透明光沢粒·白色粒 及黑色粒を含む	良	
175 16	土器器	灰		214			タテ方向内のハケ目	ナデ(素面)	◎褐色(2.5YR 6/8) 沙褐色(3YR 7/6)	微粒~2mm大的白色粒· 透明光沢粒·黑色粒· 沙褐色粒と黄色 母を含む	良		
176 16	土器器	灰		160	67		摩耗の為不明		摩耗の為不明 ケズ)	浅黃褐色(7.5YR 8/6) 黃褐色(7.5YR 8/8)	1~2mm大的白色粒·透 明光沢粒を多量に含む 及褐色粒·黑色粒· 赤褐色粒を含む	良	
177 16	6 土器器	灰?			71		ナデ		摩耗の為不明	◎黃褐色(7.5YR 7/8) ◎褐色(3YR 6/8)	1~2mm大的白色粒·透 明光沢粒·黃褐色 片·赤褐色粒を含む	良	
178 16	6 土器器	灰?					ナデ(羅針真あり)	ナデ	型色(SYR 6/8)	微粒~3mm大的白色 粒·透明光沢粒·黑色 粒及褐色粒を含む			
179 17	6 土器器	剥落?					摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰色(SY 6/1) 灰白色(2.5YR 8/1) 浅黃褐色(7.5YR 8/4)	1~3mm大的白色粒·透 明光沢粒を多量に含む 及褐色粒·黑色粒を含む	良		
180 17	6 上部器	羽茎?					摩耗の為不明	ナデ	浅黃褐色(7.5YR 8/6)	0.5~1mm大的白色粒· 透明光沢粒を含む 及褐色粒·黑色粒を 少量含む	良		
181 17	土器器	高杯?					摩耗の為不明	摩耗の為不明	後色(SYR 7/6)	乳白色粒·赤褐色粒 やや を含む	やや 不良		
182 17	土器器	高杯?					摩耗の為不明	摩耗の為不明	橙色(2.5YR 6/6)	0.5mm以下の乳白色 粒·赤褐色粒·黑色 粒を含む	良		
183 17	6 土器器	高杯?		110	②摩耗の為不明 ③ナデ 放射状		摩耗の為不明	摩耗の為不明	浅黃褐色(7.5YR 8/4)	乳白色粒·黑色粒· 赤褐色粒を含む	良		
187 17	黑色土 器	杯		56			摩耗の為不明	摩耗の為不明	◎淡褐色(5YR 8/4) ◎褐灰色(7.5YR 5/1)	1~3mm大的灰色粒· 白色粒·1mm大的乳 白色粒·黑色粒·微細 な透明光沢粒を含む	良	内黑	
188 17	黑色土 器	高台付 器	灰	144	69	①③粗砾利用のナデ ④放射状(ケズリ)	ミガキ		浅黃褐色(7.5YR 8/4) 黃灰色(2.5Y 4/1) 黑褐色(2.5Y 3/1)	1mm大的乳白色粒· 黑色粒·透明光沢粒· 赤褐色粒を含む	良	内黑	
189 17	黑色土 器	高台付 器	灰		77	③粗砾利用のナデ(摩耗)·ミガキ(摩耗) ④ヘラ切り放射状		卷に赤褐色(2.5Y 6/1) ◎黑褐色(10YR 3/1)	微粒~1mm大的白色粒· 黑色粒と赤褐色を含む	内黑			
190 17	黑色土 器	高台付 器	灰		73	③摩耗の為不明 ④放射状(ケズリ)	ナデ(摩耗)	◎に赤褐色(7.5Y 7/4) ◎黑色(5Y 2/1)	0.5mm大的白色粒·透 明光沢粒を含む 及褐色粒を少量含む	良	内黑		

遺物 No.	持 國	文書 国版	種別	特徴	注 記		高 度		色 調	粒 子	風 成 考 察	
					口徑	底径	厚 さ	外 面	内 面			
191 17			黑色 土器 碗	高台付 輪		73		摩耗の為不明	摩耗の為不明 ③ナメ	⑤橙色(SYR 7/6) に赤・黄褐色(10YR 7/4) ⑥黒色(2.5Y 2/1)	1~2mmの大白色粒・透 明光沢・出雲繩片・赤 黄色粒・黒色粒を含む	良 内黑
192 17			黑色 土器 十器 碗	高台付 輪		80		③摩耗の為不明 ④放射灰	摩耗の為不明	⑦褐色(SYR 7/6) ⑧黒褐色(2.5Y 3/1)	0.5~1mmの大透明光沢 致・出雲繩片・赤 褐色粒を少量含む	良 内黑
193 17			黑色 土器 上器	高台付 輪		78		摩耗の為不明	ミガキ(摩耗)	浅黃褐色(7.5YR 8/4) 褐色(7.5YR 7/6) 褐灰色(10YR 5/1)	0.5~1.5mmの大乳白 色粒・赤褐色粒・褐色粒 を少量含む	良 内黑
194 17			黑色 土器 碗	高台付 輪				摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑨に⑩・橙色(7.5YR 7/4) ⑪黒色(2.5Y 2/1)	乳白色粒・深褐色・水 褐色粒を少量含む	良 内黑
195 17			黑色 土器 十器 碗	高台付 輪		74		摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑫に⑬・青褐色(10YR 7/3) ⑭オリーブ褐色(5Y 3/1)	乳白色粒を含む	良 内黑
196 17			黑色 土器 上器	高台付 輪		79		摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑮橙色(SYR 6/8) ⑯黄褐色(2.5Y 4/1)	乳白色粒を含む	良 内黑 穿孔?
197 17			黑色 土器	大輪		92		摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑰橙色(SYR 7/6) ⑲黒褐色(2.5Y 3/1)	乳白色粒・赤褐色を含 む	良 内黑
198 17			黑色 土器	大輪		102		摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑳橙色(SYR 7/8) ㉑オリーブ黒色(5Y 3/1)	0.5mm以下の大透明光 沢・乳白色粒を含む露 頭・黒褐色を少量含む	良 内黑
199 18 6			黑色 土器 皿	高台付 輪	162	70	32	①②細網状のナメ ④放射灰(ケズリ)	ミガキ(摩耗) 為不明	㉒浅黃褐色(7.5YR 8/6) 灰褐色(10YR 7/1) 黒色(5Y 2/1) ⑤黒色(5Y 2/1)	1mmの大白色粒・透 明光沢・出雲繩片・ 褐色粒を含む	良 内黑
200 18			布底 土器	布底				ナメ(指痕痕あり)	布目底	㉓褐色(7.5YR 7/6) ㉔褐色(2.5YR 7/6)	微細な白色粒・黑色 粒・透明光沢粒を含む 0.5~2mmの大白色粒・ 褐色粒を含む	良
201 18			布底 土器 十器	布底				ナメ(指痕痕あり)	布目底(摩耗)	㉕褐色(5YR 7/6) ㉖褐色(5YR 7/6)	微細な白色粒・黑色 粒・透明光沢粒を含む 1.5~2mmの大白色粒・ 乳白色粒を含む	良
202 18			布底 土器 上器	布底				ナメ(指痕痕あり)	布目底	㉗褐色(7.5YR 7/6) ㉘褐色(2.5Y 6/1) ㉙褐色(7.5YR 7/6)	微細な白色粒・透明 光沢粒を含む	良
203 18			布底 土器	布底				ナメ	布目底	㉚褐色(2.5YR 6/6) ㉛褐色(2.5YR 6/6)	微細な白色粒・黑色 粒・褐色粒を含む 0.5~5mmの大白色粒・高 白色粒・赤褐色粒を含む	良
204 18			布底 土器	布底				ナメ	布目底	㉜褐色(2.5YR 6/6) ㉝褐色(2.5YR 6/6)	1~6mmの大褐色粒・透 明光沢・出雲繩片 0.5~5mmの大白色粒・高 白色粒・赤褐色粒を含む	良
205 18			布底 土器	布底				ナメ	布目底		微細な白色粒・黑色 粒・褐色粒・褐色粒を含む	良

遺物 No.	持 方	名 称	種別	器種	法 量		測 定 等		色 調	黏 土	燒 成	備 考
					口径	底径	器高	外 面	内 面			
206 18		布袋 土器	布袋	200	55	ナデ(指痕痕あり)	布目底	⑤明黄褐色(2.5Y 6/6) ⑥明黄褐色(2.5Y 6/6)	0.5mm以下の透明光 沢粒・白色粒・雲母・ 灰白色粒を含む	良		
207 18		布袋 土器	布袋			ナデ(指痕痕あり)	布目底	④黄色(5Y 7/8) ⑤橙色(SYR 7/6)	微細な白色粒・黑色 粒・透明光沢粒を含む 0.5~2mm大の乳白色 粒・黑色粒・赤褐色 粒を含む	良		
208 18		布袋 土器	布袋			ナデ(指痕痕あり)	布目底	⑦帶褐色(2.5YR 6/6)	微細な白色粒・黑色 粒に多い褐色(7.5YR 7/4) 粒・透明光沢粒を含む	良		
209 18		布袋 土器	布袋	114		摩耗の為不明	摩耗の為不明	塑色(SYR 7/8)	微粒~1.5mm大の赤 褐色を含む			
210 18		布袋 土器	布袋	124		摩耗の為不明	摩耗の為不明	に多い橙色(7.5YR 6/4)	1~5mm大の白色粒・ 透明光沢粒・黑色粒・ 赤褐色を含む	良		
211 18		布袋 土器	布袋	133		ナデ	ナデ (一部布目底)	に多い橙色(7.5YR 6/4) 橙色(SYR 7/6)	1~3mm大の白色粒・ 透明光沢粒・雲母細 片・黑色粒・赤褐色 粒を含む	良		
212 18		布袋 土器	布袋	109		ナデ	布袋 (指痕痕あり)	橙色(SYR 7/8)	微粒~1.5mm大の赤 褐色粒・白色粒と雲 母を含む			
213 18		布袋 土器	布袋			摩耗の為不明 (指痕痕あり)	摩耗の為不明 (指痕痕あり)	橙色(SYR 7/6)	微粒~5mm大の透明光 沢粒・赤褐色粒を含む	良		
214 18		布袋 土器	布袋			摩耗の為不明 (指痕痕・工具痕あり)	摩耗の為不明	塑色(2.5YR 6/8)	微粒~1mm大の乳白 色粒・赤褐色粒を含む			
215 18	7	布袋 土器	布袋	109	80	摩耗の為不明	布目底	橙色(SYR 7/8)	1~2mm大の白色粒・ 透明光沢粒・雲母細 片・黑色粒・赤褐色 粒を含む	良		
216 18	7	布袋 土器	布袋	107	88	摩耗の為不明	摩耗の為不明 (布目底)	明赤褐色(2.5YR 5/8)	1~2mm大の白色粒・ 透明光沢粒・雲母細 片・赤褐色粒を含む	良		
217 19		須恵器	杯	126		ヨコナデ	ヨコナデ	赤灰褐色(7.5Y 7/1) 赤灰白色(7.5Y 7/1)		良		
218 19		須恵器	杯	56		③ヨコナデ ④ヘラ切り	③ヨコナデ ④ナデ	灰色(N 6/1)	微粒~1mm大の透明 光沢粒・赤褐色粒・ 雲母を含む	良		
219 19		須恵器	杯	62		③ヨコナデ ④不明	③ヨコナデ ④ナデ	灰色(N 6/1)	乳白色粒を含む	良		
220 19		須恵器	杯	70		③ヨコナデ ④ヘラ切りナデ	ヨコナデ	灰白色(N 7/1)	乳白色粒を少量含む	良	②ヘラ記号 か?	

番号 No.	年 月 日 Year Month Day	可否 Good Bad	種別 Type	部位 Part	法 規			調 査 等		色 調 色 度 度 度 度 度	地 上 部 部 部 部	保 成 成 成 成 成	備 考 考 考 考 考
					上部 Upper 部	底部 Lower 部	外 面 Outer Surf	内 面 Inner Surf					
221	19	7	須恵器	高台付 碗		68		③ヨコナデ ④摩耗の為不明 放射痕(ケズリ)	③ヨコナデ ④ヨコナデ後 ナデ	灰白色(N 7/)	1mm大の透明光沢粒、 白色粒と雲母を含む	良	
222	19	7	須恵器	高台付 碗	131	75	55	摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰白色(7.5Y 8/1) 黄灰色(2.5Y 6/1)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母粗片、 黑色粒を含む	やや 不良	
223	19	7	須恵器	高台付 碗	141	70	55	①ヨコナデ ③ヘラ切り後ナデ ④ヘラ切り後ナデ	①③ヨコナデ ④ナデ	灰白色(2.5Y 8/1) 灰白色(2.5Y 7/1)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母粗片、 黑色粒を含む	良	穿孔?
224	19		須恵器	高台付 碗		72		③摩耗の為不明 ④ヘラ切り後ナデ	摩耗の為不明	②灰褐色(2.5Y 7/2) ⑤灰白色(2.5Y 7/1)	1mm大の乳白色粒、 透明光沢粒・黑色粒 と雲母を含む	やや 小良	ススキ
225	19		須恵器	高台付 碗		70		③回転利用のナデ ④ヘラ切り後ナデ	③回転利用のナデ ④ナデ	灰白色(5Y 7/1)	乳白色粒を少量含む	良	
226	19		須恵器	高台付 碗		80		③ヨコナデ ④回転ヘラ切り	ナデ	灰白色(2.5Y 8/1)	乳白色粒を含む	良	
227	19		須恵器	高台付 碗		66		③ヨコナデ ④ヘラ切り後ナデ	③ヨコナデ ④ナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒を含む	良	
228	19		須恵器	高台付 碗		69		③ヨコナデ ④回転ヘラ切り	③ヨコナデ ④ナデ	灰白色(5Y 7/1) 灰色(N 6/)	1~2mm大の白色粒、 透明光沢粒・雲母粗 片・黑色粒を含む	良	
229	19		須恵器	高台付 碗		66		③ヨコナデ ④ケズリ後ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒はほとんど 含まない	良	
230	19	7	須恵器	大碗	173	76	66	①③ヨコナデ ④回転ヘラ切り後 未調整	①③ヨコナデ ④ヨコナデ後 ナデ	灰白色(N 7/) 灰白色(7.5Y 7/1)	乳白色粒・雲母粗片 を含む	良	
231	19		須恵器	大碗	170			ヨコナデ	ヨコナデ	②灰白色(N 7/) ③灰白色(N 7/)	良		
232	19		須恵器	大碗	168			ヨコナデ	ヨコナデ	②灰褐色(N 5/) ③灰色(N 5/)	微細な白色粒・黑色 粒・透明光沢粒を含む	良	
233	20	7	須恵器	豆?	322			①上部はヨコナデ 下部は磨了且 タキをナデ消し 波状紋	①ヨコナデ	香褐色(10YR 6/1) ②灰色(7.5Y 5/1)	威性の透明光沢粒と 雲母を含む		
234	20		須恵器	豆?	313			①ヨコナデ ③タキ後ナデ ナデ	①ヨコナデ ②ナデ (擦痕止痕)	灰白色(2.5Y 7/1) 灰白色(2.5Y 8/1)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母粗片、 黑色粒を含む	良	
235	20		須恵器	豆				①ヨコナデ ③格子目タキ後 ヨコナデ	①ヨコナデ ②ナデ (擦痕止痕)	灰白色(7.5Y 6/1)	乳白色粒を含む	良	
236	20		須恵器	豆	110			ヨコナデ	ヨコナデ	④灰ホレ・グレ色(7.5Y 4/2) ⑤灰色(N 6/)	乳白色粒を含む	良	自然釉

植物 No.	特 徴	写真 図版	性状	番号	法 量				著 徴 等		色 調	粘 土	焼 成	備 考
					口徑	奥深	高さ	外 面	内 面					
237 20	須恵器	壺						ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒をわずかに含む	良	自然釉	
238 20	須恵器	壺	103					ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒・雲母細片・黒色粒を少量含む	良		
239 20	須恵器	壺	156					ヨコナデ	ヨコナデ	灰褐色(N 7/)	乳白色粒を少量含む	良		
240 20	須恵器	壺	100					ヨコナデ	ヨコナデ	特級灰色(SG 6/) ⑤青褐色(SHG 7/1)	0.1mm以下白色粒を少量含む 0.1mm以下の黒雲母を含む	良		
241 20	須恵器	壺						タキ後ナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒を少量含む	良	收手	
242 20	須恵器	壺						ヨコナデ	ヨコナデ	⑥灰白色(N 7/) ⑦灰白色(2.5GY 8/1)	1~2mmの大白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良		
243 20	須恵器	壺						ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色(N 7/)	乳白色粒をほとんど含まない	良		
244 20	須恵器	壺						ヨコナデ	ヨコナデ	⑧灰白色(N 5/ N 4/) ⑨白白色(N 7/) 灰色(N 6/)	1~2mmの大白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良		
245 20	須恵器	壺						タキ後ヨコナデ	ヨコナデ	⑩灰色(N 5/) ⑪灰色(N 4/)	乳白色粒を含む			
246 20 7	須恵器	壺						⑫ヨコナデ ⑬ヘラケズリ	ヨコナデ	⑫灰褐色(SYR 4/2) に赤褐色(SYR 4/3) ⑬灰色(N 6/ N 5/)	乳白色粒・雲母細片を含む	良		
247 21	須恵器	壺						ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	0.5mm大の透明光沢粒・白色粒を少量含む	良		
248 21	須恵器	壺						ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒を含む	良		
249 21	須恵器	壺						⑭ヨコナデ ⑮ケズリ	ヨコナデ	⑭灰色(SY 6/1) ⑮灰色(N 6/)	乳白色粒と淡褐色粒を含む	良		
250 21	須恵器	壺						カキ目	ヨコナデ	⑯別種灰色(SG 7/1) ⑰青褐色(10BY 5/1)	1~2mmの大白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良		
251 21	須恵器	壺						タキ後カキ目	ヨコナデ	⑱灰白色(N 7/) に赤褐色(10YR 7/2) ⑲灰色(N 6/)	1~2mmの大白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良		
252 21	須恵器	壺		106				⑳ヘラケズリ タキの痕跡 ㉑ヘラ切り廻し後ナデ	ヨコナデ	㉒灰白色(N 7/) ㉓灰色(N 6/)	1mm大の白色粒・透明光沢粒・雲母細片を含む	良		
253 21	須恵器	壺		129				㉔ヨコナデ ㉕ヘラ切り廻し	ヨコナデ	㉖灰色(N 6/ 5/) ㉗灰黑色(2.5Y 6/2) ㉘灰色(N 6/)	1~2mmの大白色粒・透明光沢粒・雲母細片・黒色粒を含む	良	自然釉	

遺物 No.	登 記 回 数	写真 回数	種別	器種	法 量				調 整 等	色 調	胎 土	焼 成	備 考
					上径	底径	高さ	外 面					
254	21		須恵器	壺			123	③ヨコナデ ④ヘラ切り端	ヨコナデ	⑤赤褐色(2.5YR 3/2) 灰色(N 4/) 呑灰色(N 5/)	1mm人の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片 を含む	良	
255	21	8	須恵器	壺				③タキ(格子目) ④ナデ	ナデ (工具痕あり)	⑥灰色(5Y 6/1) 呑灰色(N 5/)	乳白色粒と雲母を含 む	良	自然胎付系
256	21	8	須恵器	壺			96	③格子目タキ後 ヨコナデ ④ナデ	ヨコナデ	⑦灰白色(2.5Y 7/1)	乳白色粒を少量含む	良	
257	21		須恵器	壺			127	ヘラケズリ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒を含む	良	
258	21		須恵器	壺?			127	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色(N 6/)	乳白色粒をわずかに含む	良	
259	22		須恵器	壺				①ヨコナデ ②タキ(格子目)	①ヨコナデ ②当具痕	灰白色(2.5Y 7/)	乳白色粒をわずかに含む	やや 良	
260	22		須恵器	壺	150			①ヨコナデ ②タキ(格子目)	①ヨコナデ ②当具痕	灰色(N 6/)	乳白色粒・雲母を含む	良	
261	22	8	須恵器	壺			200	①格子目タキ後ヨコ ナデ ②タキ(格子目)	①ヨコナデ ②当具痕	灰白色(5Y 8/1)	微粒~1mm大の乳白 色粒・黑色粒を含む	やや 不良	
262	22		須恵器	壺			231	①タキ後ヨコナデ ②タテ力肉平行タク キ	①ヨコナデ ②当具痕	灰色(10Y 6/1)	1mm大の白色粒・透 明光沢粒・雲母細片 を含む	良	
263	22		須恵器	壺				①格子目タキ後ヨコ ナデ ②格子目タキ	①ヨコナデ ②ナデ	灰白色(2.5Y 8/2)	乳白色粒を少量含む	やや 不良	
264	22		須恵器	壺				草軸の為不明 タキ(格子目)	草軸の為不明	灰白色(5Y 7/1)	微粒~1mm大の透明 光沢粒・黒褐色粒と 雲母を含む	やや 不良	
265	22		須恵器	壺				タテ方向の平行タク キ後ヨコナデ	ヨコナデ 同心円當具痕	⑨灰白色(2.5GY 8/1) 呑灰色(N 5/)	1mm大の乳白色粒・ 雲母細片・黒褐色粒を 少並含む	良	
266	22		須恵器	壺				③タキ(格子目)後 ヨコナデ ③格子目タキ	③ヨコナデ ③当具痕	灰白色(2.5Y 6/1)	乳白色粒を含む	やや 良	
267	23		須恵器	壺				②タキ(格子目) 後ヨコナデ ③タキ(格子目)	③ヨコナデ ③当具痕	灰白色(N 7/)	乳白色粒・雲母細片 を含む	良	
268	23		須恵器	壺				タテ方向のタキ	当具痕	⑩灰白色(7.5Y 7/1) 呑黑色(2.5Y 3/1)	乳白色粒を含む	良	
269	23		須恵器	壺				斜方向のタキ	当具痕	灰色(N 6/)	0.5~2mm大の透明光 沢粒・白色粒を含む	良	
270	23	8	須恵器	壺				タキ	平行タキ	灰白色(2.5Y 8/2)	1mm人の灰色粒・雲 母を含む	やや 不良	

遺物 No.	邦 国	写真 図版	種別	器種	法 量	測定等		色 調	胎 土	燒 成	備 考		
						口径	底径	器高	外 面	内 面			
271 23			旗忠器	壺				タタキ(格子目)	ナデ (工具痕有り)	灰白色(N 7/) 灰色(SY 6/)	乳白色粒・雲母細片 を含む	やや 不良	
272 23			旗忠器	壺				タタキ抜ナデ	尚真痕	褐灰色(10YR 5/1)	乳白色粒を含む	良	
273 24	8		旗忠器	壺				タタキ(格子目)	タタキ	灰色(N 5/)	乳白色粒を含む	良	
274 24	8		旗忠器	錠	239 143 118	①②旗子目タタキ後 ヨコナデ ③ナデ ④ナデ			灰白色(SY 7/1) 灰色(N 6/)	1~2mm大の白色粒・ 透明光沢粒・雲母細 片・黑色粒を含む	良		
275 24			旗忠器	錠				ヨコナデ	ヨコナデ	青灰色(10BG 6/1)	0.1mm以下の透明白 沢粒をごく少量含む 0.5mm以下の白色粒・ 黒雲母を含む		
276 24			土器	杯・碗	56			摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰白色(7.5Y 8/1) 灰白色(N 7/)	1mm大の白色粒・透 明白沢粒・雲母細片・ 黑色粒を含む	やや 不良	
277 24			その他	杯				⑤摩耗の為不明 ⑥回転ヘア切羽	摩耗の為不明	卷灰白色(7.5Y 7/1) 卷灰白色(7.5Y 7/1)	微細な白色粒・褐色 粒を含む	やや 不良	
278 24			その他	杯	69			摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰白色(2.5Y 7/1) ~灰色(N 4/)	乳白色粒をほとんど 含まない	やや 不良	
279 24			その他	杯	74			摩耗の為不明	摩耗の為不明	⑤明赤灰色(2.5YR 7/1) ~絶灰色(SG 6/1) ⑥明赤灰色(2.5YR 7/1) 母を含む	0.5mm以下の透明白 沢粒・白色粒・黒雲 母を含む		
280 24			その他	高台付 鏡	144 64 61	①回転利用のナデ ②摩耗の為不明 ③放射痕	①③回転利用 のナデ ④摩耗の為不明	灰白色(N 8/) ~絶灰色(N 3/)		乳白色粒を含む	やや 不良		
281 24			その他	高台付 鏡	158			回転利用のナデ (底面)	回転利用のナ デ(底面)	灰白色(2.5Y 7/1)	乳白色粒を含む	やや 不良	
282 24			その他	高台付 鏡	62	③摩耗の為不明 ④回転利用のナデ 放射痕(ケズリ)	摩耗の為不明	灰白色(SY 7/1)		乳白色粒を含む	やや 不良		
283 24			その他	高台付 鏡	69			摩耗の為不明	摩耗の為不明	灰色(N 4/)	乳白色粒を含む	やや 不良	
284 24			その他	高台付 鏡	68			摩耗の為不明(ナデ)	摩耗の為不明 (ナデ)	⑤灰色(N 5/) ⑥灰色(N 6/)	微細な白色粒・黑色 粒・透明光沢粒を 含む	やや 不良	
285 24			その他	高台付 鏡	69	回転利用のナデ 放射痕(ケズリ)	回転利用のナ デ	灰白色(SY 8/1) 暗灰色(N 3/)		乳白色粒を少量含む	やや 不良		
286 24			その他	高台付 鏡	64	③回転利用のナデ ④放射痕(ケズリ)	回転利用のナ デ	⑤暗灰色(N 3/) ⑥暗灰色(7.5YR 8/1)		乳白色粒を少量含む	やや 不良		
287 25	9		縦輪 脚器	鉢	138			①②ヨコナデ	①ヨコナデ ②沈線	灰色(Hue N 6/0) 灰褐色(Hue 10Y 7/2)	1mm弱の白色粒を極 小含む	良	

通号 No.	特 徴 同種	写真 種別	添標	法 量			調 査 等		色 調	脂 士	焼 成	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面				
288	25	紙 糊 陶器	且	140	76	32	①③ヨコナデ ④裏剥の油不明	明褐色 (7.5YR 7/1~7/2)	0.1mm以下の白色粒・ 黒雲母を多く含む	良		
289	25	9	紙 糊 陶器	且	140	72	30	①③ヨコナデ ④裏剥の油不明	灰オリーブ色(5Y 6/2) 浅黄～ 浅黄色(5Y 7/4~8/3)	0.5mm以下の透明光 沢粉・白色粒・赤色 粒を含む	やや 不良	
290	25	9	紙 糊 陶器	且	148		施釉	施釉	⑨1灰白色(N 6/) ⑩オリーブ灰色(10Y 5/2) 含む	乳白色粒をわずかに 含む	やや 不良	
291	25		紙 糊 陶器	且		68	施釉(剥離)	施釉(剥離)	⑪1灰白色(2.5Y 4/2) ⑫オリーブ黄色(7.5Y 6/3)	乳白色粒を含む	良	
292	25	9	灰 釉 陶器	且		78	③施釉 ④無釉 ケズ?	施釉	⑬1灰白色(N 7/) 物オリーブ灰色(2.5GY 6/1) 含む	乳白色粒をわずかに 含む	良	
293	25	9	灰 釉 陶器	且		76	③施釉 ④無釉 ケズ?	施釉	⑭1灰白色(N 8/) ⑮オリーブ灰色(2.5GY 6/1) 含む	乳白色粒をわずかに 含む	良	
294	25		灰 釉 陶器	且		62	③ヨコナデ ④ケズ? 無釉	ヨコナデ 有設	灰白色(2.5Y 8/1)	乳白色粒をわずかに 含む	良	
295	25		灰 釉 陶器	且		67	③油釉 ④ケズ? 無釉	③施釉	⑯1灰白色(N 7/) 物灰オリーブ色(5Y 6/2) 含む	乳白色粒をわずかに 含む	良	
296	25	9	青 釉	現		82	③施釉 ④ケズ? 無釉	施釉 開路	⑰1淡赤堀色 (Hue2.5YR 7/3) ⑱浅黄色 (Hue5Y 7/3)	乳白色粒をわずかに 含む	やや 不良	
297	25	9	青 釉	現		67	④墨付は無釉 目録	目録	緑灰色(10GY 6/1)	0.1mm以下の白色粒・ 黒雲母を含む	良	

遺物 No.	種類 名	分類 名	特徴	法量		調整等		色調	粒土	測定 成績	備考				
				最大量		外面									
				最大量	大底量	内面	内面								
184	17	土器部	脚	34	ナデ			灰白色(2.5Y 7/1) 灰オリーブ色(SY 6/2)	1~2mmの白色粒・ 透明白沢粒・黑色粒・ 雲母網片を含む	良					
185	17	土器部	脚	32	ナデ			⑤灰白色(10YK 8/1)	微細な黑色粒・透明 光沢粒・0.5~2mm大 の透明光沢粒・乳白 色粒・灰色粒を含む	良					
186	17	土器部	脚	33	ナデ 指頭痕			にぶい褐色(7.5YR 7/4) ~浅黄色(7.5YR 8/4)	粗・2mm以下の透明 光沢粒・白色粒・黑 色帶を多く含む	やや 軟					
298	25	土製品	土器	38	10	2.4	ナデ	浅黄褐色(10YR 8/3)	微細な透明光沢粒・ 乳白色粒を含む	良					
299	25	土製品	土器	40	12	4.6	ナデ	④浅黄褐色 (7.5YR 8/4) ⑤浅黄褐色 (7.5YR 8/4)	微細な白色粒・乳白 色粒・透明光沢粒を 含む	良					
300	25	土製品	七輪	35	14	5.6	ナデ	⑥浅黄褐色 (10YR 8/3)	微細な白色粒・黑色 粒・透明光沢粒・0.5 ~3mmの大の灰色粒・黑 色粒・褐色粒を含む	良					
301	25	土製品	土器	46	15	5.8	ナデ	⑦浅黄褐色 (10YR 8/3)	微細な透明光沢粒を 含む	良					
302	8	土器部	不明	96	21(?) 60(Y)	ナデ	ナデ	⑧浅黄褐色 (7.5YR 6/3) ⑨棕色(5YR 7/6)	微細な赤褐色粒・白 色粒・黑色粒・透明 光沢粒・0.5~2mm大 の白色粒・半透明粒・ 灰白色粒を含む	良					
303	8	土製品	カマド	36(8) 37(8)		指頭痕		浅黄色(2.5Y 7/4)	2mm以下の透明光沢 粒・白色粒を多く含む 2mm以下の黒色粒を 多く含む 1mm以下の赤色粒を 多く含む	良					

III 分析

第1節 三生江遺跡における植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

1はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壤などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探しも可能である（藤原・杉山，1984）。

2 試料

分析試料は、9世紀中頃から10世紀初頭とされる遺物包含層から採取された①～④の4点である。

3 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105°Cで24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対して直径約 $40\mu\text{m}$ のガラスピーブズを約0.02g添加
(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法（550°C・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による $20\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスピーブズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスピーブズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスピーブズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10～5g）をかけて、単位面積で幅厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48である。

4 分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表2および第26図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、キビ族型、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族型

[イネ科--タケ亜科]

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、未分類等

[イネ科--その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

[樹木]

ブナ科（シイ属）、ブナ科（アカガシ亜属？）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）、その他

5 考察

（1）稻作跡の検討

水田跡（稻作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稻作が行われていた可能性が高いと判断している。この判断基準にもとづいて稻作の可能性について検討を行った。

9世紀中頃から10世紀初頭とされる遺物包含層（試料③、④）、および同包含層から出土した土師器内の土壤（試料①、②）について分析を行った。その結果、試料①、試料②、試料④からイネが検出された。このうち、遺物包含層（試料④）では密度が18,900個/g、土師器内の土壤（試料②）でも12,200個/gと極めて高い値である。これらのことから、同包含層の時期に調査地点もしくはその近辺で稻作が行われていた可能性が高いと考えられる。

（2）イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち、栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族（ムギ類が含まれる）、ヒエ族型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、ジュズグマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属型（シコクヒエが含まれる）、モロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

（3）植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、ブナ科（シイ属）をはじめブナ科（アカガシ亜属？）、クスノキ科、マンサク科（イスノキ属）などの樹木（照葉樹）が検出された。また、ススキ属型やウシクサ族型などのイネ科も検出されたが、いずれも少量である。樹木は一般に植物珪酸体の生産量が低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。

以上のことから、当時の遺跡周辺には、シイ類やカシ類、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたものと推定される。

6 まとめ

植物珪酸体分析の結果、9世紀中頃から10世紀初頭とされる遺物包含層からは、イネが多量に検出され、

調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が高いと判断された。当時の遺跡周辺には、シイ類やカシ類、クスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたものと推定される。

参考文献

- 杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オバール分析の現状と問題点。植生史研究、第2号、p.27-37。
 杉山真二 (1997、投稿中) 植物珪酸体分析からみた九州南部の樵采樹林発達史。植生史研究。
 藤原宏志 (1976) プラント・オバール分析法の基礎的研究(1) -数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法-。考古学と自然科学、9、p.15-29。
 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オバール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オバール分析による水田跡の探索-。考古学と自然科学、17、p.73-85。

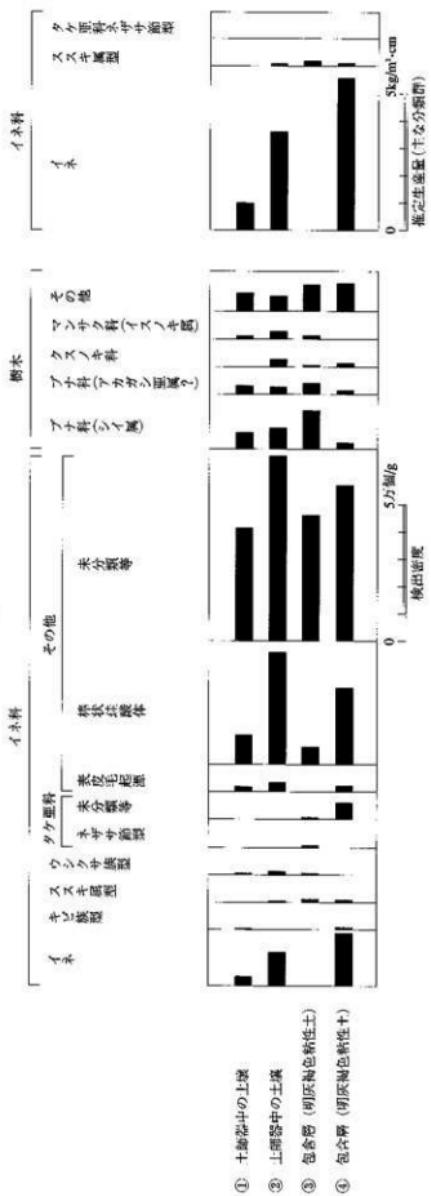
表2 三生江遺跡における植物珪酸体分析結果
 検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群	試料	①	②	③	④
イネ科					
イネ	34	122		189	
キビ族型	7				8
ススキ属型		7	14		8
ウシクサ族型	7	14		7	
タケア科					
ネザサ節型			7		
未分類等				7	60
その他のイネ科					
表皮毛起源	21	36		23	
棒状珪酸体	110	410	64	280	
未分類等	414	677	460	567	
樹木起源					
ブナ科 (シイ属)	62	79	141		23
ブナ科 (アカガシ亞属?)	34	29	42		15
クスノキ科		29	7		15
マンサク科 (イスノキ属)	14	29	14		
その他	69	58	99		106
植物珪酸体总数	772	1490	863	1293	

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m³·cm)

イネ	1.01	3.60		5.56
ススキ属型		0.09	0.18	0.09
ネザサ節型			0.03	

第26図 三生江流域における植物性緑体分析結果



IV まとめ

三生江遺跡の土器組成は、土師器、黒色土器、須恵器、縁釉陶器、灰釉陶器、中国陶磁器から成り、南九州においては古代集落遺跡の一般的な出土状況である。

出土した回転台土師器の杯や碗は他と比較して圧倒的に多く、その器形のほとんどは須恵器の器形に似ており、体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がるものである。杯は器高が高く口径12cm前後のものと器高が低く口径がやや大きくなるものがある。前者は鹿野遺跡出土資料に類似するものが多く、後者は小山尻東遺跡や西ノ原地区遺跡にみられる。また、円盤状高台を有するものも数点出土しており、これについては鹿児島だけでなく宮崎平野での出土遺跡も多い。高台付碗は在地産土師器碗の特徴である底部外面に放射痕を施すものが多く出土した。これは、「花弁状模様」や「放射状の指揮調整痕」と呼ばれているものである。鹿野遺跡出土資料を観察した限りでは、底部のヘラ切り離し後、放射状に凹凸（ケズリが多い）を施してから高台を貼り付け、貼り付け部分（底部外面全体に及ぶものもある）をナデ調整している。この放射痕は、高台杯碗、高台付皿、高杯（脚部と杯部の接合部分）にのみ見られる手法であり、高台を貼り付ける際の作業工程の一つと思われるが、その目的については課題が残る。

黒色土器は杯、高台付碗、高台付皿、大碗からなる。それらの中には、土師器と同じ円盤状高台の杯や放射痕を有する高台付碗、高台付皿が存在しており、黒色土器の在地生産がおこなわれていたと思われる。

須恵器は量的に少ないものの、主に杯、高台付碗、盃、甕、鉢が出土している。供膳形態の杯、碗類が多く、全体的に下村窯の資料に類似するものが多く見られる。また、No.221のように放射痕をもつ高台付碗が土師器や黒色土器と同様に存在することは、須恵器窯における工人集団の在り方を考える上で土師器工人の影響は重要な問題である。

越州窯系青磁などの中国陶磁器をはじめ、縁釉陶器や灰釉陶器などを出土する県内の遺跡は、西下本庄遺跡（国富町）、余り田遺跡、市位遺跡、平畠遺跡（宮崎市）、大島畠田遺跡（都城市）、守崎遺跡（西都市）など、20カ所以上から出土している。三生江遺跡では、縁釉陶器や灰釉陶器は、9世紀後半に生産したとされる碗、皿、投皿、盃が出土している。縁釉陶器に関しては京都産や周防産のもので、灰釉陶器は猿投窯のものであるが、出土量では宮崎県内で比較するとかなり多い遺跡のひとつである。

この9世紀後半という時期は、高岡町はもとより宮崎県内でも遺跡数が増大する傾向がある。高岡町内でも6カ所以上で同時期の遺跡を調査しているが、遺跡の場所は幅狭な丘状の低丘陵などであり、いずれも大集落を営むような場所には立地していない。河川が合流するような交通等の要所といえるところではなく、やや内陸寄りの平野部に延びる低丘陵が多い。三生江遺跡についても広い平野部や河川に面するところではない。今回の調査地は三生江遺跡の中心ではなく、遺跡自体にどういう遺構が伴うのかわかららない。しかし遺跡の立地で考えるならば、大島畠田遺跡のような居館が存在していたとは考えられず、同等の支配層の関係は薄い。それは中国陶磁器の出土量を比較しても明らかであり、それ以下の支配階級層に関係する遺跡であろうと思われる。

参考文献

- 1 上村俊雄 1984 「鹿児島県荒平須恵器古墳群発見の意義とその問題点について」『古文化談叢』 第14集 九州古文化研究会
- 2 小田富士雄 1985 「西ノ原遺跡の土器とその位置」『西ノ原地区遺跡』宮崎市教育委員会
- 3 日高孝治 1985 「平畠遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第2集』宮崎県教育委員会

- 4 長津宗重 1985 「小山城東遺跡」「宮崎学園移山遺跡発掘調査報告書第3集」宮崎県教育委員会
- 5 齋田敏 1986 「奈良播磨系中世須恵器生産の成立と展開」[研究紀要] 第3号 神戸市立博物館
- 6 山本信夫 1988 「大宰府における古代末から中世の土器・陶磁器」「中近世土器の基礎研究」IV 日本中世土器研究会
- 7 1988 「前原南遺跡」「宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第4集」宮崎県教育委員会
- 8 前川栄 1989 「平安時代における鍍銅用器の編年的研究」「古代文化」第41巻第5号 古代学会
- 9 森隆 1990 「西日本の墨色土器生産(中)」「考古学研究」第37巻第3号 考古学研究会
- 10 岡本武雄 1991 「日向における古代の土器」「中近世土器の基礎研究VI」日本中世土器研究会
- 11 中島徳次郎 1992 「大宰府における輪形窓の変遷」「中近世土器の基礎研究」VII 日本中世土器研究会
- 12 中島徳次郎・城戸勝利 1994 「施幸国から来た食器 一太宰治条坊跡 第89次調査出土資料ー」「中近世土器の基礎研究」X 日本中世土器研究会
- 13 岩田正浩 1994 「紫野遺跡」高岡町教育委員会
- 14 横山哲英 1994 「上ノ瀬第2遺跡」「都城市教育委員会
- 15 岡本武雄 1995 「各地の土器様相 九州南部」「概説 中世の土器・陶磁器」日本中世土器研究会
- 16 木村明史 1996 「下村密跡群報告書」化上原町教育委員会
- 17 松林義樹 1997 「余り田遺跡」「宮崎県埋蔵文化財センター
- 18 井上光久男 1998 「畿外遺跡にみる三彩・鍍金陶器」「日本の三彩と鍍金」愛知県陶磁資料館
- 19 東進家 1998 「市内遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター
- 20 宮崎県埋蔵文化財センター 2000 「シンポジウム 日向における平安時代の様相資料集」
- 21 谷口武雄 2000 「大島島田遺跡」宮崎県埋蔵文化財センター

写 真 図 版





遠景（東から空撮）



遠景（西から空撮）

図版2



調査区近景（西から）



調査区近景（東から空撮）



調査前近景

自然流路（東から）



自然流路（北から）



淀み付近包含層



図版4



1



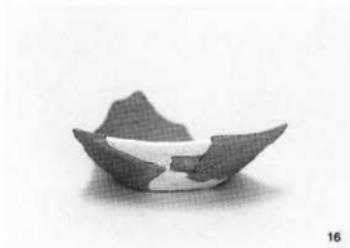
6



7



8



16



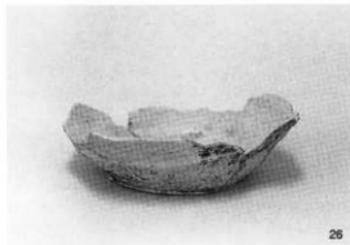
18



23



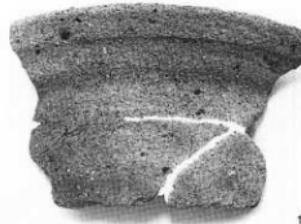
24



図版6



163



167



172



177



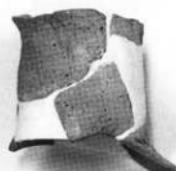
178



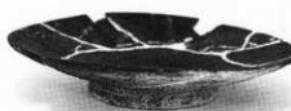
179



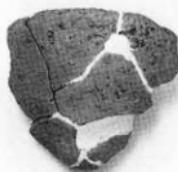
180



183



199



215



216



221



222



223



230



233



246

図版8



255



256



261



270



273



274



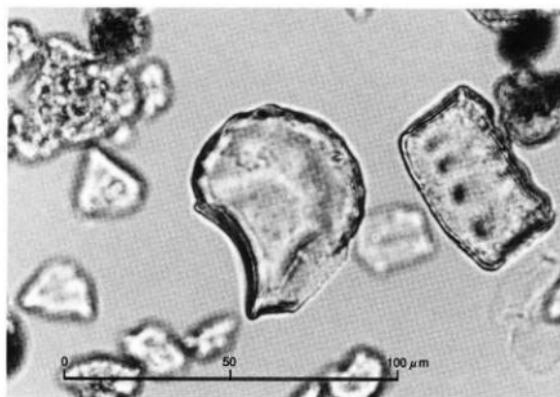
302



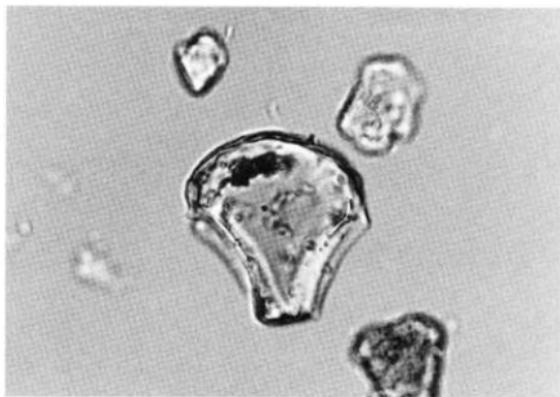
303



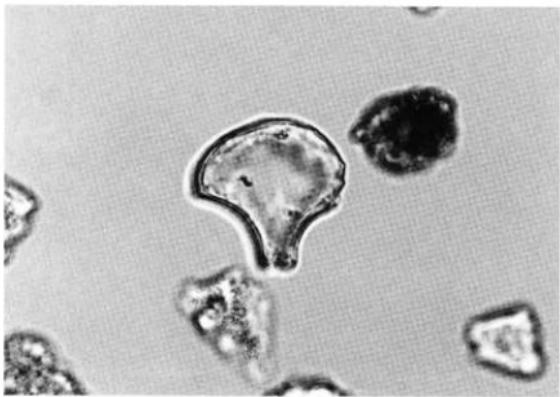
図版10



②イネ



④イネ

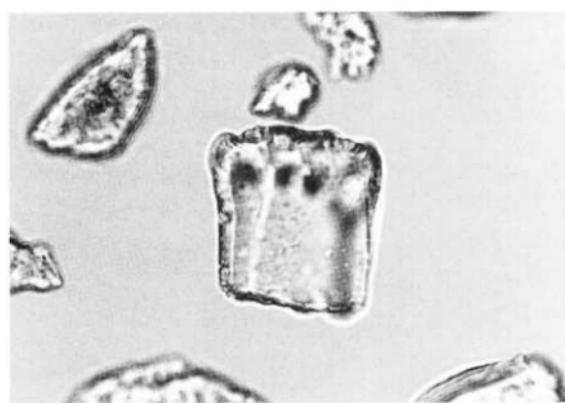


②イネ

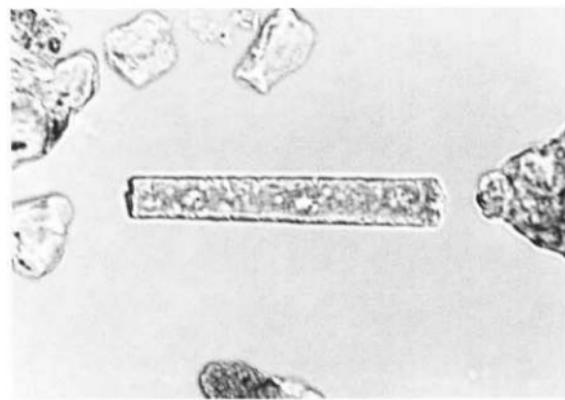
②スキ属型



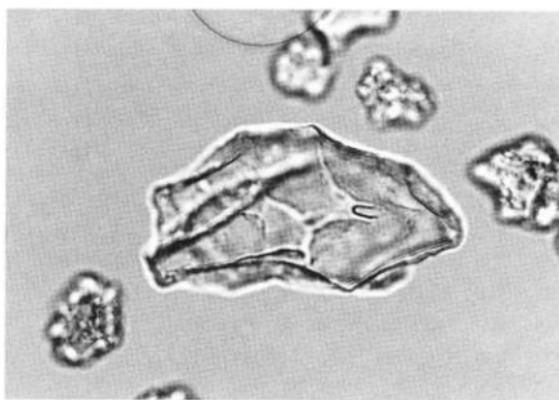
③ネザサ節型



①棒状硅酸体



図版12



①ブナ科（シイ属）



②クスノキ科



③マンサク科（イスノキ属）

表3 報告書登録抄

フリガナ	ミショウエイセキ
書名	三生江遺跡
調書名	県営担い手育成基盤整備事業城ヶ峰地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	第1巻
シリーズ名	高岡町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編集者名	島田 正浩
発行機関	高岡町教育委員会
所在地	富山県東諸県郡高岡町大字内山2887番地
発行年月日	2001年3月31日

収蔵遺跡名	所在地	コード		緯度	経度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
三生江遺跡	東諸県郡高岡町 大字花見5128-1	45 -381	136	31° 57' 6"	131° 20' 36"	1997 10 ~11	1,150m ²	圃場 整備
種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
散布地	古代	無			土師器 須恵器 黒色土器 布痕土器 緑釉陶器 灰釉陶器 越州窯系青磁			

高岡町埋蔵文化財調査報告書第21集

三生江遺跡

県営担い手育成基盤整備事業城ヶ峰地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001年3月発行

発行所 宮崎県高岡町教育委員会
宮崎県東諸県郡高岡町大字内山287
〒880-2292 ☎ 0985-82-1111

印刷所 秀巧社印刷株式会社
福岡県福岡市南区向野2-13-29
〒815-0035 ☎ 092-541-5661